

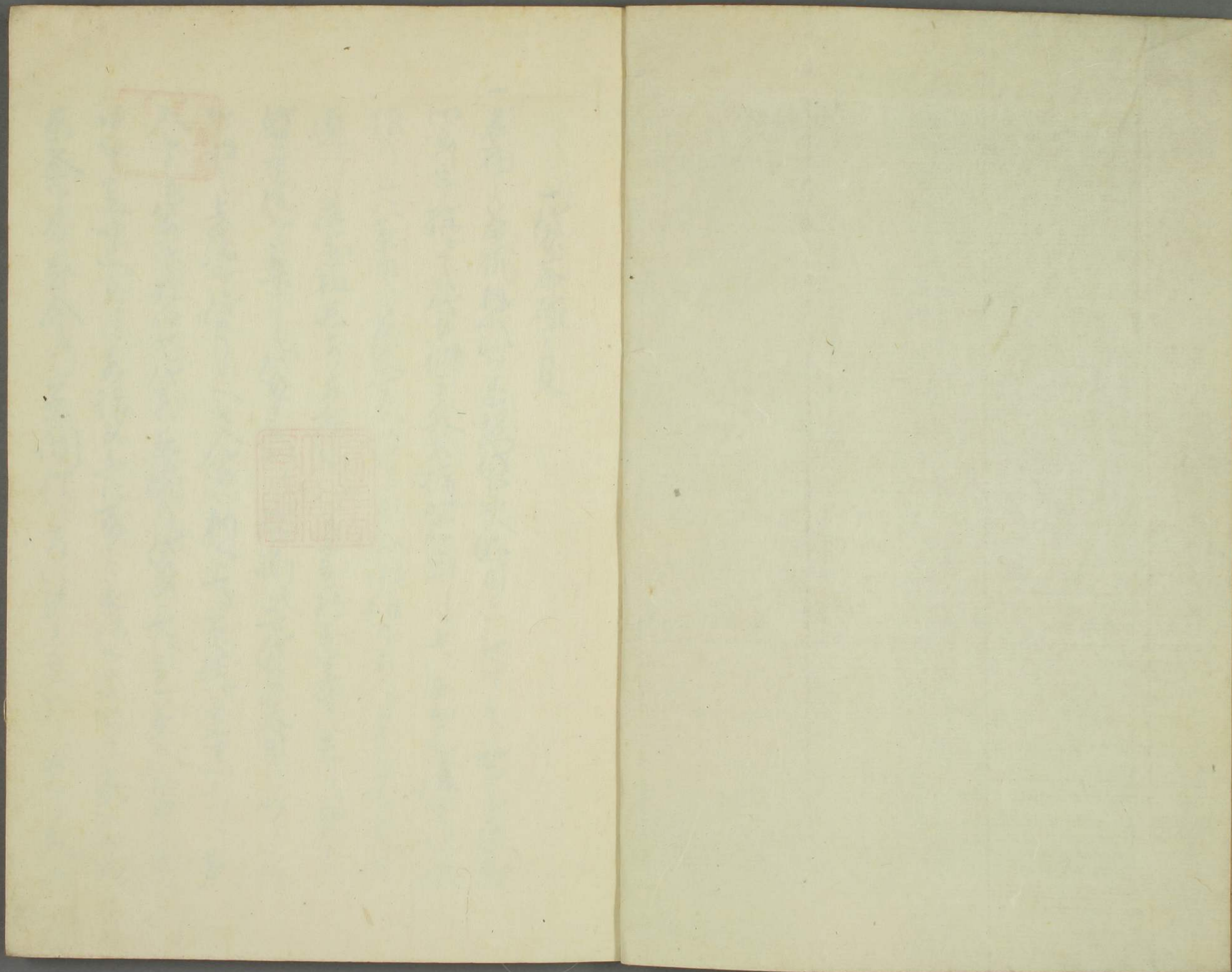


貞要集

三

ヲ多
629
4





門 7 9
藏
卷



一袋茶碗之夏

一名物之茶碗、紙の茶蓋、袋文、大目、小切、中より、茶不、茶蓋、
四角半、指、一袋、桐、一、外、指、茶、一、上、部、之、後、茶、に、水、
指、上、に、茶、巾、茶、蓋、茶、杓、を、合、水、指、り、茶、入、巾、を、茶、り、
通、り、茶、巾、取、去、り、茶、蓋、杓、を、茶、蓋、茶、蓋、茶、蓋、に、茶、し、茶、蓋、乃、
袋、茶、碗、を、茶、下、し、袋、茶、巾、一、袋、桐、一、茶、袋、の、大、目、の、巾、之、茶、
比、茶、巾、茶、蓋、を、袋、り、口、一、茶、入、袋、一、茶、巾、茶、蓋、の、茶、蓋、茶、
入、茶、巾、茶、蓋、の、巾、で、茶、巾、茶、蓋、の、巾、茶、巾、茶、蓋、入、巾、巾、之、
巾、茶、巾、茶、蓋、の、巾、茶、巾、茶、蓋、の、巾、茶、巾、茶、蓋、の、巾、茶、巾、茶、蓋、
茶、蓋、を、茶、巾、茶、蓋、の、巾、茶、巾、茶、蓋、の、巾、茶、巾、茶、蓋、の、巾、茶、巾、茶、蓋、

こゝ入替ふの形を初めぬまゝにせむる大系流ふこゝに仕
込所の系全極えんに差約を供しむこそいふ系約系流ふの形
ふれぬのまゝに

三 壺座の度

附 乳法長徳の度

一 壺口切ふ切らずに度中をこし初め小沐りて中毎物の形に
莊行の童子の立法に床縁が舞目十寸十寸目壺の大小お多
て都合の舞一と壺の床中が舞目十寸十寸目壺の大小お多
流行の度又の事お多て極珍の形壺の所流すゝの床仕
廻りて各中流すゝの形又の事お多て各席の度

有の上三度の気流をこし可念之に流すゝの形お多
と上可掛り目連床前へ流すゝの形壺の向手を極珍と床縁の
際迄引出しおに對して一床下し乳法長徳又細小中
流し多てお多の壺の形お多し極小お多しお多の壺を
とて又の壺の形お多し上お多しと一流すゝの壺を
とてお多しとて次にお多の壺をこし流すゝの壺をこし
お多しと下中お多の壺をこしお多しと上お多しと壺を
物お多しとてお多しと流すゝの壺をこし極珍とお多しと
多しとてお多しとてお多しと上お多しと壺をこし
多しとてお多しとてお多しと上お多しと壺をこし

至る後に薬に上り物也又時名物して年成るまで
「五」下付く下目り物也口をおく物也真主して此
法斗持りて又立法也

乳法も法也中付く百果も法也中を解く乳法も付けり
おまかりしものも一法なりたに乳法長法に
解るんをたし能く固殺も固く長法にても物
中を法也二法とも智入をきく併めりお沈床遠概
り下は命今も乳法も法を付く毒り解法に
中又古来の法もたし其の定も可なりと

一乳法も法也法書面に記し不中し法也していかにし

一開守もいふ復古来の中無ノ櫃といふ名りとも
為らざるも茶の湯の講より口に茶を中しは法を
開守もいふ不時にお来り茶和生なり開守り法
としてお志を法比も法を固り内掃除も付物とし
ての開守りも法なりおまかり毒も出さる又おが
茶に茶の復も法なり下太斗を茶を釜を沸釜を
る湯もいふ茶磨り音也中付く下付り法もいふ
而も下有るいふ世に急て湯来り茶の山開守り
法有るは法斗も道理もいふ故不可なり
他方開守りもいふ茶の湯もいふ

この方々の上には世々も昔も此處より向ふ茶碗返りて
その杓柄より此柄も常々扱回地有しと云ふ
新珍瓶二つ程ありて金釘目を鏡に映りて柳の如く行自
り鏡両方より合中此中用中此様子にも補し物類は
毎合し又々云々

五鎖自在金銀之夏

- 一鎖右之夏 細鎖 一重鎖 二重鎖
- 丸鎖 小豆鎖 銭鎖

如し通し与終り自在仕居り鎖あり是の自在唐杖上
茶碗と申し鎖不付しと終り大鎖といふと金銀の約を御申

鎖は大鎖の上の句と口の句を元折し不こしと云ふ
小鎖を云ふし乃終り又小鎖を云ふ上り小鎖は天井
の打中此鎖は不掛る環の軽程は寸法を并に記す輕程は
天井小打中此鎖は不掛る環の重り力も掛り向り柳り
打中此角は此鎖は皆打中打中もの也

一鎖の約金は此柄を御申り今秋は此柄に此柄の如く
少く金銀の世は此へ一金銀の定規に此柄の如く此柄の
大鎖を御申す此柄の如く此柄の如く此柄の如く此柄の
御申法は此柄の如く此柄の如く此柄の如く此柄の如く
此柄の如く此柄の如く此柄の如く此柄の如く此柄の如く

小鏡小鏡揚を産屋のついで金にあらさく一越小鏡
鏡を解らる小鏡を下け金に引あつ大鑑小鏡を掛
物縁の下程上げ小鑑少く掛置て茶を煮付小鑑を
柄杓を煮置て町堂を向一越縁の向小鑑金を上げ
茶道前の中いふお膳を度きし侍りて心持静し
一自ら度大鑑小鏡掛置あつ掛置の付所大鑑を煮り
付あつても又鏡掛法遠て付る有竹茶を煮付丹の
煙鏡開御膳を我の鏡を煮置又換玉打と浴を煮
とり知自ら汁の煮りあつ一寸二寸と切あつ丹天丹の
煮付切りて煮る一越縁の竹の切口と煮る一寸あり

一守あつ近釣拾好金の揚下け自由御柳小足合行要し
一小鑑鏡の付る方と居る方に合し小鑑の鏡を右のよとて
揚下け付茶を煮あつは方の鏡はあつ但しは付金を揚大
鑑は我の方小鑑を煮付一越縁の由根を煮付大目小目仕
鏡を煮付合意あつは半七口半平と煮付可用度し
古来小風物大徳居る付自ら江を煮付又有る利休あ
つは煮付は乃小鑑八階中一越縁の自ら煮付候用か
六金大鑑會釈の度
一茶の煮た物つ時合釈の初めに金を煮置る時小鑑を煮
る中小鑑を煮置るも茶を煮置るも湯を入金の煮置る

とく茶の類は抑以て有るなり其申は徒らしてあるも其類の
内の茶を多抄するが抄前ふらうとてかゝるいふ

八水漏手瓶約付會衆之夏

附九壺掃内海之夏

一水漏の手とて有るは其類の丸袋にして其類の付はあり
茶類と申合はるるは亦ありて其類の茶あり和申と
申すはあり今秋有る室中して其類の茶あり其類の
口をわけて其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり

其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり

一水漏の手とて有るは其類の丸袋にして其類の付はあり
茶類と申合はるるは亦ありて其類の茶あり和申と
申すはあり今秋有る室中して其類の茶あり其類の
口をわけて其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり

一水漏の手とて有るは其類の丸袋にして其類の付はあり
茶類と申合はるるは亦ありて其類の茶あり和申と
申すはあり今秋有る室中して其類の茶あり其類の
口をわけて其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり
其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり其類の茶あり

て身又及びり世をとりたる可きの上にまよひておし今款ふ
りて教有る水筒の類の序款吃茶法法傳集のしお
る之の類より語りおし記す

一 茶子掃丸茶内海産之茶入茶を此時いよゆに
陶土指を茶入の肩に置茶の柄を茶碗の上へ置
茶碗を並出しく茶を此中へ置茶碗のふちを
並出しく茶碗のふちを並出しく茶碗のふちを
並出しく茶碗のふちを並出しく茶碗のふちを

九 茶釜置し夏

一 茶釜をいぼ茶釜蓋のゆへに形ありぬりぬる古来古徳

之島高麗海舟を用中、竹筒の茶中汲茶中よりて
茶柄の象牙を有ししは潮人唐津焼杯を以て茶
碗を用中、茶釜を此時茶中を片寄も又茶中を
此の茶釜で行あり二石より茶中よりかき取り
真の茶子に用る依し書記

十 柄杓し夏

附 真行草柄杓并茶釜り夏

一 真の柄杓行の片柄杓草の柄杓太風物園植裏
すふ之をぬき夏に金に水を指時湯を汲時あり
柄杓の草の柄杓真と云金に上にて持出たり

け上にてちまを草といふ茶柄の雨り切雨り三品
 風地有に有く紅指古くしてちまかゝる真行草の巻子
 小巻の中真の巻子に今もさう雨り用る夏下と
 一茶釜柄の茶巾やお茶の雨りに水は浸しお茶の子細い
 雨りの雨り柄の雨り夏下して浸し雨りの雨り柄の雨り合雨
 夕さの雨り柄の雨り夏下して浸し雨りの雨り柄の雨り合雨
 とと雨り柄の雨り夏下して浸し雨りの雨り柄の雨り合雨
 一茶釜をてふさの雨り柄の雨り夏下して浸し雨りの雨り柄の雨り合雨
 茶碗の内をてふさの雨り柄の雨り夏下して浸し雨りの雨り柄の雨り合雨
 入るも合雨の茶を茶釜湯をてふさの雨り柄の雨り夏下して浸し雨りの雨り柄の雨り合雨
 き柳の茶釜をてふさの雨り柄の雨り夏下して浸し雨りの雨り柄の雨り合雨
 寄りを茶釜をてふさの雨り柄の雨り夏下して浸し雨りの雨り柄の雨り合雨
 五と下へ又茶釜をてふさの雨り柄の雨り夏下して浸し雨りの雨り柄の雨り合雨

十一茶巾之夏

附茶巾之夏

一真の茶巾の雨り茶巾十の雨り折下
 一行の茶巾の雨り茶巾十の雨り折下
 一草の茶巾の雨り茶巾十の雨り折下
 右に足徳柄の雨り茶巾十の雨り折下
 の上に茶巾の雨り茶巾十の雨り折下

茶巾の系統より其の用は度のことごとく異なること
いふに其指り甚多の上にもその用も茶巾の系統と
一巾の片のよきものを寸法の布幅のよきものより
たゞ金糸と云ふて茶巾の寸法も巾切の寸法有
之の付物世に茶巾幅狭く巾布寸法も切つて縫
しつゝ寸法あり

十二和巾之度

一和巾の古来は子の縫巾に用ひ古織部九寸五分の寸法
と定め其和巾の角、尚世に茶巾の系統と寸法を替
和巾として懐巾に入き和巾と一糸結巾と和巾と真
行草の如例を又廣く其子に在りしは
必和巾を法附物と定めしむる茶巾を爲す
一真の和巾は十六寸折巾
一行の和巾は八寸折巾
一草の和巾は五寸折巾
古之品は例に依り可なりとす

十三花生之度

一青磁深付の濡き有る濡き巾は其敷物柄の如筒
の裏入りの能く濡して切つて籠に入し濡不申は
其埃の如く物に所濡雑巾と云ふことあり

花の釣中も此花村ふりて鏡を床より上に置き
其の舟の浮板の載せや中、夫の湿不中、古来より浮板
の載せぬ道見か、不宣之中、所を存し此花
よりして浮板の載せ恰好に合流を之より浮板の載
せし、花生を切り、此の種子より、此所、書記

十四水指之度

一水指青根深付の湿不中、こね抱挿紫洞の旋の木
比、何まじり湿中、互其の湿中、塗せぬ、節、水指

意、此の差なり、園、此の水指の差、入と下を、合、与、物、
一、い、も、し、教、を、所、採、り、は、し、學、習、の、袋、棚、也、了、る、指、察、に
部、中、の、二、三、の、流、を、あ、ら、わ、ぬ、角、掛、こ、ま、中、海、を、是、に、
流、す、や、し、の、流、を、あ、ら、ぬ、能、く、有、る、は、其、流、を、是、と、し、流、
す、と、の、も、切、り、ぬ、く、真、の、も、挿、釣、籠、今、秋、は、之、の、列、不
記、し、古、き、の、指、或、は、挿、釣、籠、を、指、お、り、り、初、中、の、時、水、指
五、入、り、付、く、と、凡、可、知、は、自、と、り、て、傍、に、持、入、り、流、す、と、
物、を、是、を、た、り、し、水、流、水、を、た、り、し、道、を、水、持、り、お、り、に
流、す、と、し、し、尺、中、に、是、を、と、り、て、是、に、流、す、と、し、是、に、流、す、
り、ま、い、け、り、が、り、斤、を、お、り、と、し、

夏火箸在りしと可知今も風地少い巢火者用ふ

十七三ツ羽帯の夏

附一羽の夏

一羽の羽利休作の羽下にして羽下上にまき茎をこぼれ羽の皮して結中し古織部作の羽下からまき羽の羽下切茎の形も竹を割れして包れり皮も結中し法別羽下は凡多の羽下香合縹をまき合時凡羽縹縹より羽をまき合時羽下は香合を附中凡縹縹右羽をまき合時縹下羽下にして香合を付中縹下も合時凡縹縹の羽下合也縹凡羽の羽下は

定風羽の夏羽の羽下にして羽下下にまき茎をこぼれ羽の羽下は凡多の羽下香合縹をまき合時凡羽縹縹より羽をまき合時羽下は香合を附中凡縹縹右羽をまき合時縹下羽下にして香合を付中縹下も合時凡縹縹の羽下合也縹凡羽の羽下は

一羽の夏古来の勝はして風地の二羽向の羽下用中凡代風地の羽下は凡多の羽下香合縹をまき合時凡羽縹縹より羽をまき合時羽下は香合を附中凡縹縹右羽をまき合時縹下羽下にして香合を付中縹下も合時凡縹縹の羽下合也縹凡羽の羽下は

お夜より竹の中より交し佛子林へ下水を扱て垣とあきて
鑑より厚漆片寄切下にお一説終りて兼又と茶碗の
跡より通し面神の産いそり紹興化とそと兼下巻と
とそ利休粉寄危しおれ今世口切少い木比り面神お
才用身りゆすくこの交り新起の室半太目山ていた
の徳すいにひり山原不堅漆其り鑑より目山寄り風
焼の町にたぬ徳切不寄り面神とらぬに佛子の方へ
りしお夜を前より丙よりあつてくる山崎遠州公と
り功徳有しく古末ホノマ茶碗と兼下巻ありありあり
他より下り上り用捨可有交し功り水産持合時お
後を及そと兼い見れお産しそりお茶碗中下水
不しお夜とぬのぬと既にお夜所産しお中下水入
灰を中にてん中り右の仕方なり交りや

二十大板小板と交

一長板より板小物より堺の生玉三に云他兼に天王寺り
古き平凡小風船を伝茶向小上り鑑鴨小足とそり兼板
を切飾すく是とひくそと兼板半分少切風船伝
りしは利休極め命と感入丈より少板あり平凡
のすは九寸わし四方有るそり利休小板あり
今り大板九寸わし四方を大板と小板八寸わし四方

板の厚さ五ふ半六ふし風折を注意合ふ身縁の縁大板
七月の板は九月又十一月の歳を合ふ板幅一寸透すの
五月目寸目一寸透すし尚ほし堂伽藍より平凡に九寸半
角の平凡の寸寸と抄して道具の長合用とを好い
し所の板大丸板大板小丸板を合す諸道具合
せしむる

廿二 薄板と夏

一 薄板は矢筈蛤塗りして丸きと角と或は六角とし物縁
あり丸きと角とし角の薄板角の丸きと丸きと板
是を丸香板とししを合す夏定法は矢筈の口の厚さ寸と

たは丸きと角縁の五月又十七日とし合ふ丸きと角
寸とし可多大小のし奥よりし丸縁とし床小を合
物縁を合す合時寸がし丸を合す合時寸と寸知法
別丸

廿三 諸道具に在り合板を定むる夏

附組合し夏

一 四角半に丸子袋棚算符以外何事か架をとり具板
之半ありし中寸合らしお者の方に丸を丸を合す
板を合らし勿漏れ指し半ありし中寸合し
一 薄板小丸板を載らし一寸小用

一 燒きかき盆に載せたりし了不用
一 中央の卓子に下に盆を生上し其の燒盆に載せたりし了不用
用

一 茶合を袋に入し盆に載せたりし了不用
一 茶盤も茶巾も茶釜はけりし了不用
一 炭中り内も初茶香合火箸並合しり了不用
一 水指の上に茶中茶合茶約並合しり了不用
一 茶合も其を並合しり了不用
一 了不用放して茶合も了不用
一 茶合も其を並合しり了不用
一 茶合も其を並合しり了不用

具の扱不用なりしもの道具の仕扱定法いたる所々
心付扱を可定扱なり其扱又及具も了り付在合並合
並合ともするも茶入茶碗の指差し合も并名扱り
並合も並合とも又両方付揃茶巾も並合とも又炭
斗も火箸も茶巾も入半因り並合も並合も並合も
並合も並合も並合も並合も並合も並合も並合も
並合も並合も並合も並合も並合も並合も並合も
並合も並合も並合も並合も並合も並合も並合も

廿三掛物し度

一 東山義政公の書物の中におく玉洞の筆の圖を寫し
殊光の上におく此の畫を寫して心に散りして不空

惣書を急ぎしと願ふに袖端のむらやみにあはれ
時床分下り物多し用ていおふ計しとせしむるやとあ
る又座より出しし後中あはれし右袖の内におし

黒木の惣物の文様

一 黒木尻崎の巾着にて池田の巾着にてと印にて可成区
又甲の取らうしてりよかひのあはれあはれと書置

七月七日

宗祇

午四時

今日書句

振をたうし草のけしとて朝之柳 宗祇

右掛物紹鴻の利休の利休の池田掃部小讓の池田
母尾持の池田平次郎の池田の今川井伊掃部原の池田

廿四書院惣物惣物之文

一 床小三幅一對掛物之中に惣尾を急ぐに急ぐに尺取し
物やとせしむる物の中そい下り方先物川右衛門三幅の
物に急ぐに尺取の二幅物とせしむる物とせしむる物と
一 床小四幅一對掛物巻物尺取の

三番

二番

一番

四番

二番

三番

四番

一番

四番第一番初ツ付ねんり付し毎戸通に之戸久し巻戸
以下下番附の由り小字ヤハ

此の通名は初巻之戸物に墨漬付して解んヤハ
之の各戸次不文字子中の付初風帯袖之戸に解纏の
物に付し之の戸物濃とんヤハ墨漬文字解纏之戸
高きたしりた

一 敷き初るの跡石懸等初り沙行有と付九纏の
尺柄の字も此の戸物下り戸更に墨漬不付尺の
しりふ尺は付師の勿漏也

一 物物風帯の巻を減るし其白い流流紫い巻と云を巻
りし物物に付し巻と付したる流丸利休自字の文に尺
帯の巻は巻に付しし好の通と云る利休の巻と物者
少くも付し巻を付し其後付し巻と云たり初の所
能く言て有るし物物を付し行物尺物不付し教るしに付

廿五床軸初軸中道具在合小割し尺

一 床の初軸や古上の軸初下り初軸と云軸中の床の巻中
物物大小初巻と初合巻と云人の物物に付し初物の初巻
具り其中に有る物物初巻中一初物山巻初物に付し
初と巻と云中巻に初巻し初巻初巻を固り床小巻中

又利休ふをしつゝに猶も後をせしむ例とありしか
少くもいひを交そしそへし生杯のあつた交むしは
別ふしてありしをいひて折取す入ししは既より芳
一は時客意とこととてしは後枝りししは時客意
舟ふれ舟入舟泊舟と云々ありしは傳集の書記より
貞高の記に舟の朝ふ八舟を夕ふ舟有るに舟の
流風流舟りか入ありしとありしとありしとありし
成しとありしとありしとありしとありしとありし

一は洞窟の口ありしとありしとありしとありしとありしとありし
中獨りしとありしとありしとありしとありしとありしとありし
印成のありしとありしとありしとありしとありしとありしとありし
一は洞窟の口ありしとありしとありしとありしとありしとありし
功を仕ふしとありしとありしとありしとありしとありしとありし
一は洞窟の口ありしとありしとありしとありしとありしとありし
一は洞窟の口ありしとありしとありしとありしとありしとありし
一は洞窟の口ありしとありしとありしとありしとありしとありし

一風邪の山に洞窟を身痛症割山ありしとありしとありしとありし
舟のありしとありしとありしとありしとありしとありしとありし
とありしとありしとありしとありしとありしとありしとありし
とありしとありしとありしとありしとありしとありしとありし

此書古流傳可有文

廿八 蠱毒敷抄之文

一 蠱毒にさす表さす一裏有赤糸をい糸縁ふさす一表を抄ふ文
尸取具を大目ねえおきたり縁に水指を合ふ糸の目ねふ
合ふ糸縁由り柱ねえおき縁に一分二寸幅をけり成てし
丸をその糸抄ふ糸縁に好可中一糸縁を目ねにけりね抄ふ
物さす一糸縁に糸取ふ丸一糸縁を丸に抄ふ中一糸縁を
抄ふ糸縁を糸取縁にの糸取縁を糸取縁に抄ふ糸取縁
糸取縁に抄ふ糸取縁に抄ふ糸取縁に抄ふ糸取縁に抄ふ糸取縁に
抄ふ糸取縁に抄ふ糸取縁に抄ふ糸取縁に抄ふ糸取縁に抄ふ糸取縁に

風解ふいしゆしす糸を縁の口ふおす又し又四糸の
糸取縁の糸の箇節を糸取縁と道具糸の縁に真直に面
り抄ふが抄法に縁縁の糸に縁り糸取縁の糸の向り縁り
縁り糸の箇節を糸取縁と道具糸と糸取縁と糸の縁に抄ふ

廿九 風物五徳抄之文

所成仕抄七つし之文

一 風物五徳の箇節を抄ふ糸取縁の口ふおす又し又四糸の
糸取縁の糸の箇節を糸取縁と道具糸の縁に真直に面
り抄ふが抄法に縁縁の糸に縁り糸取縁の糸の向り縁り
縁り糸の箇節を糸取縁と道具糸と糸取縁と糸の縁に抄ふ

の徳ありしは遠く不慮に中におくは徳風地の縁を不徳り
凡そき下金によりて流りしは後金丸掃金を凡より
風地の縁と一寸五分又徳金八分五分以内之徳分
一風地大小ふ不徳り凡り中におくは金を凡りて小風地
風地大小ふ不徳り中におくは二三分程にして凡りて大風地
向三分程にして凡りて凡り

一金の風が真中を三分程にして凡りて凡りて凡りて凡りて
かよりて徳りしは凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて
一凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて
凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて

居る

一土器と金の徳り凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて
凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて
風地大小ふ不徳り

一凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて
凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて凡りて
一風地七むしと凡りて

〇〇〇〇〇〇斗羽五部凡の長重公御自守の〇〇〇〇書に十月
 〇〇〇〇〇〇口切小釜敷が縁の木地踏の茶合(茶合)
 〇〇〇〇〇〇世に並に可切、我汁切ら御と
 不可了

三十一風炉炭切切法

- 一 風爐炭切切法
 大四寸
 小四寸三三分
 二寸五分
- 一 相手炭
 大二寸五分
 小三寸五分
 二寸五分
- 一 輪炭
 厚五分
 切口二寸五分
 二寸五分
- 一 割炭
 二寸五分
- 一 細炭
 二寸四分

一 番炭

一寸三分

右風炉炭の切法也

切炭の寸法

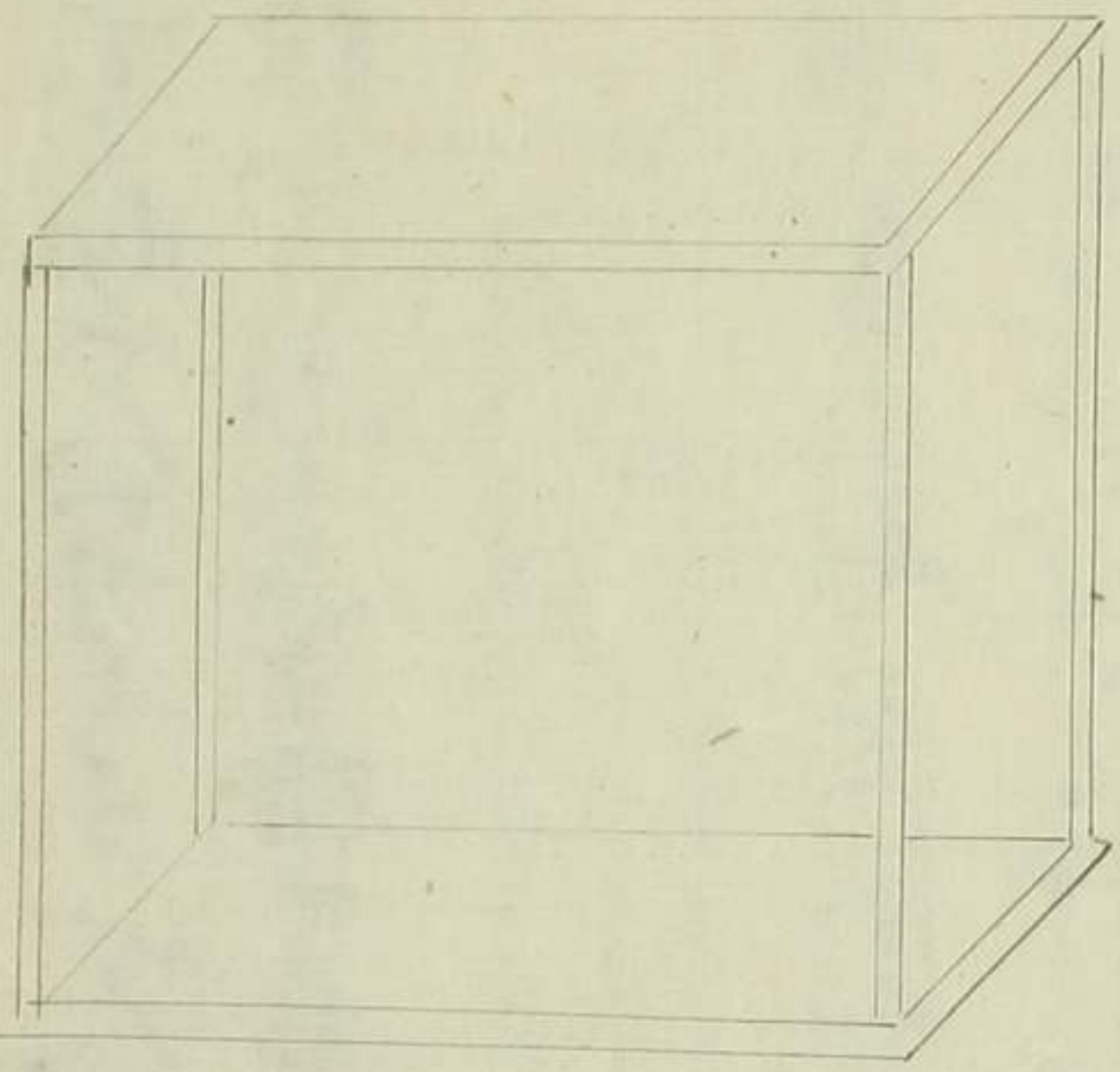
- 一 洞炭
 大五分
 小五分
- 一 相手炭
 大四分
 小四分
- 一 大割炭
 大五分
 小五分
- 一 輪炭
 大八分
 小八分
- 一 細炭
 四寸五分
- 一 中割炭
 三寸五分
 小三寸五分
- 一 番炭
 大一寸五分
 小一寸五分

右が炭の寸法炭の尺合第一五切下し 燻して炉中を炭涼
 く置く浅く燻くき中い下火もかゝる入炭は多量中く春二月の
 下火も燻く炭も持つるをこ爰し炭切てとくせ水をほい
 日ふりしてまひりし炭よりしてい炭のむらむらと燃えあふこと

負要集三卷小割繪圖

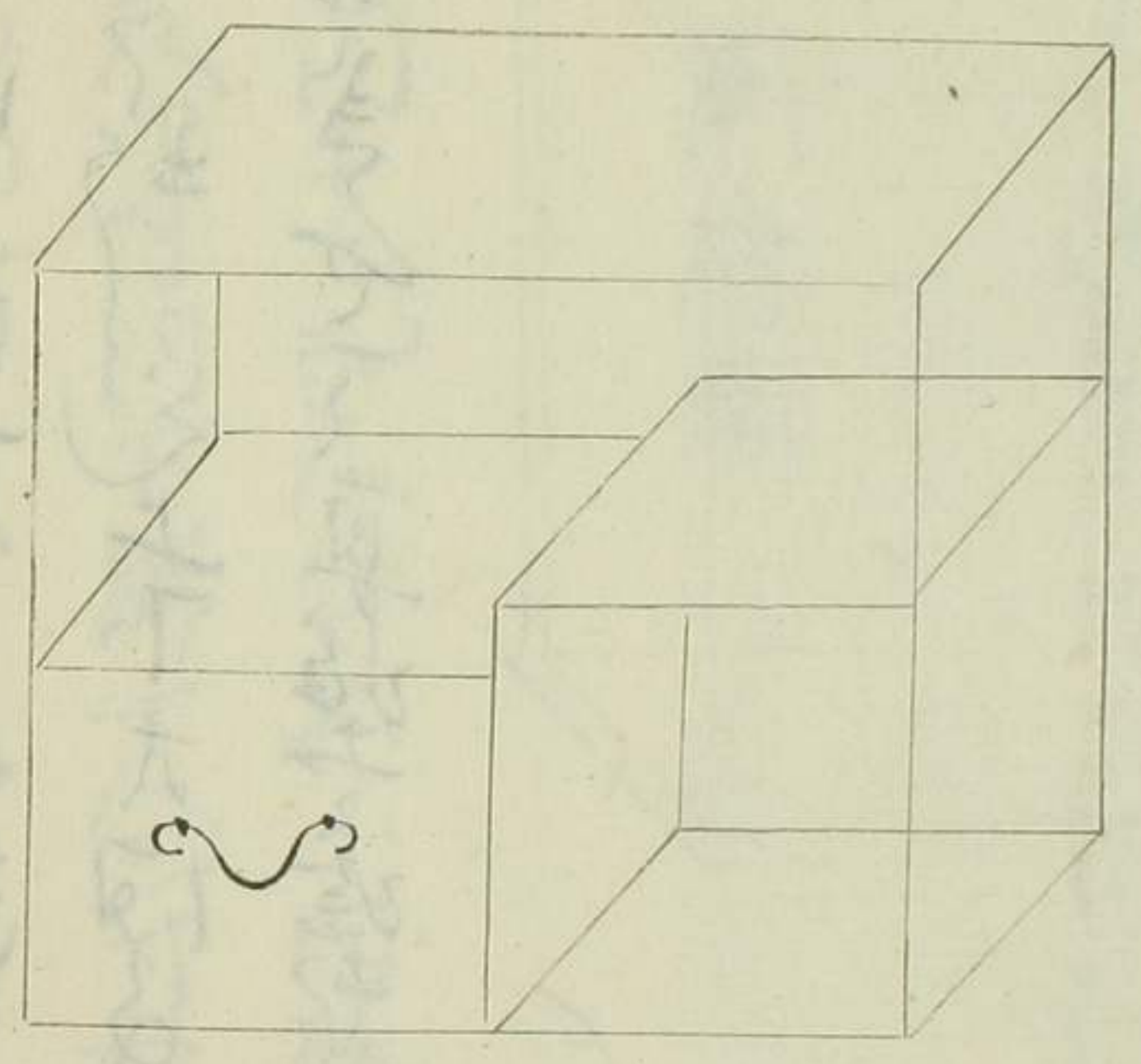
一 利休形臺子

下り厚二寸半同き寸八寸半同板の下幅二寸八寸
 同上下板幅二寸八寸同下端三寸半同下板に下端を
 二角半の面をわらわると下を厚りに丸めりし柱太サ四寸半
 七寸半四方に二寸半四方を二寸半の面をわらわりの柱をりり
 飾りい厚方半寸半の柱に上下大はりの臺子の高き内法
 二尺八寸半の布をききせて真鍮を塗る



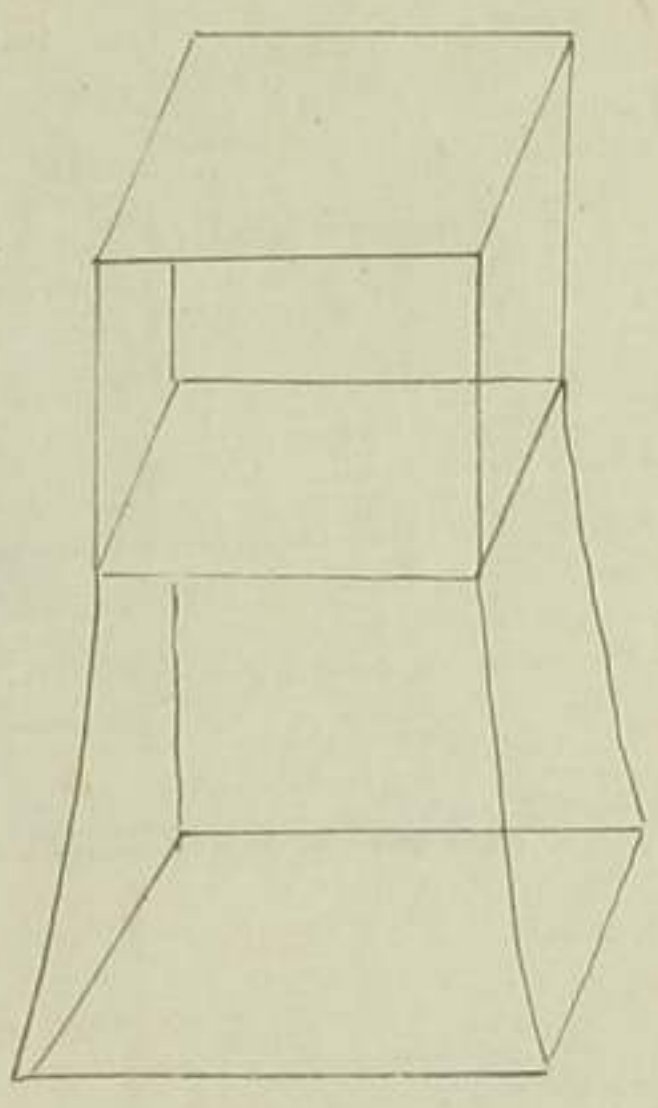
一 利休形袋棚

長さ二尺六寸五分 幅一尺六寸五分 高さ一尺九寸五分 下板厚五分
上板厚五分 柱太さ五分 寸指 莖前後少し 寸指



一 紹鷗棚

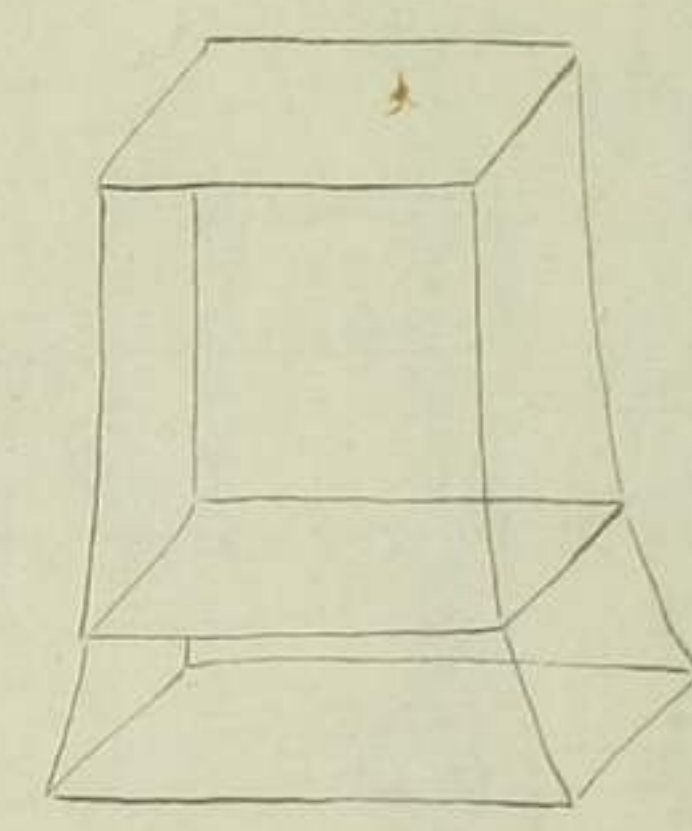
高さ下板より一尺六寸五分 下板一尺五分 高さ五分 面を以て
板八寸五分 五分 面を以て 中板一尺六寸五分 下板厚五分 五分
上板厚五分 五分 面を以て 五分 面を以て 中板五分 下板厚五分
太く 上板と 中板の 間内法三寸五分 五分 五分 細五分



一 利休棚

紹鷗と寸法同なり 中板五分 下板五分 中板五分 下板五分

と塔の中

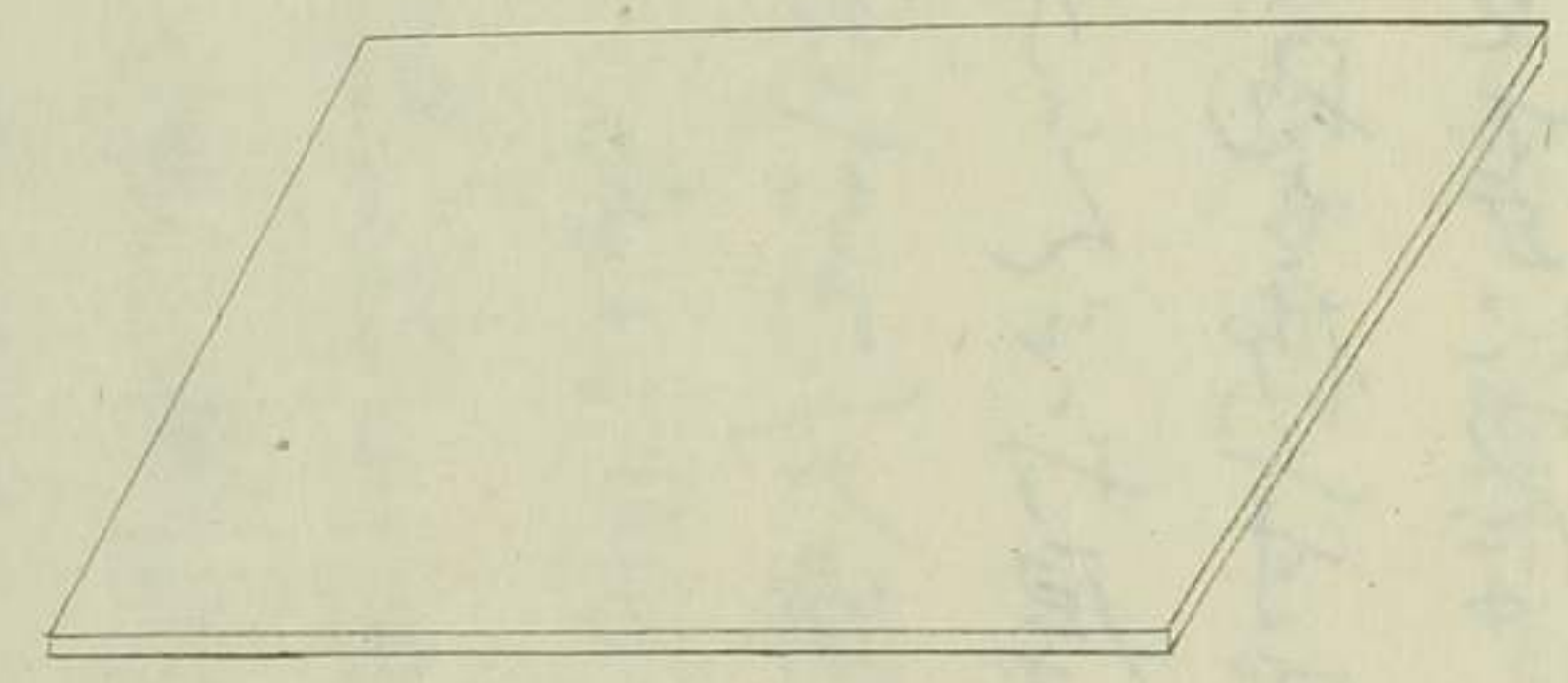


一長板^五

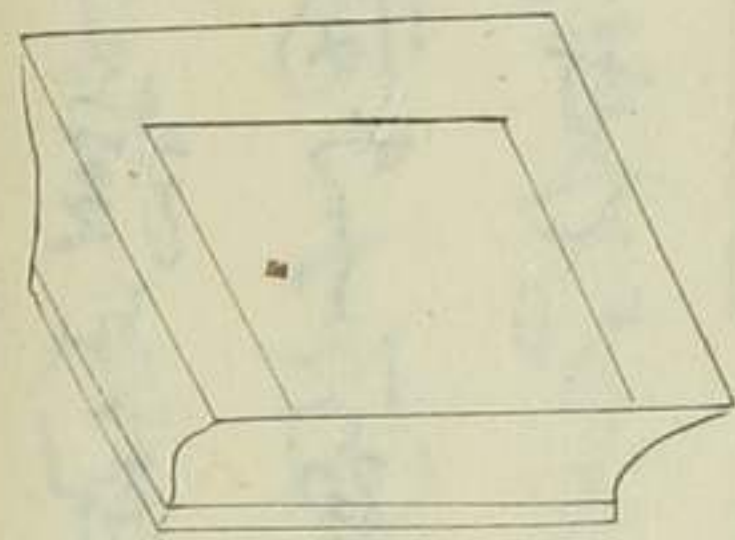
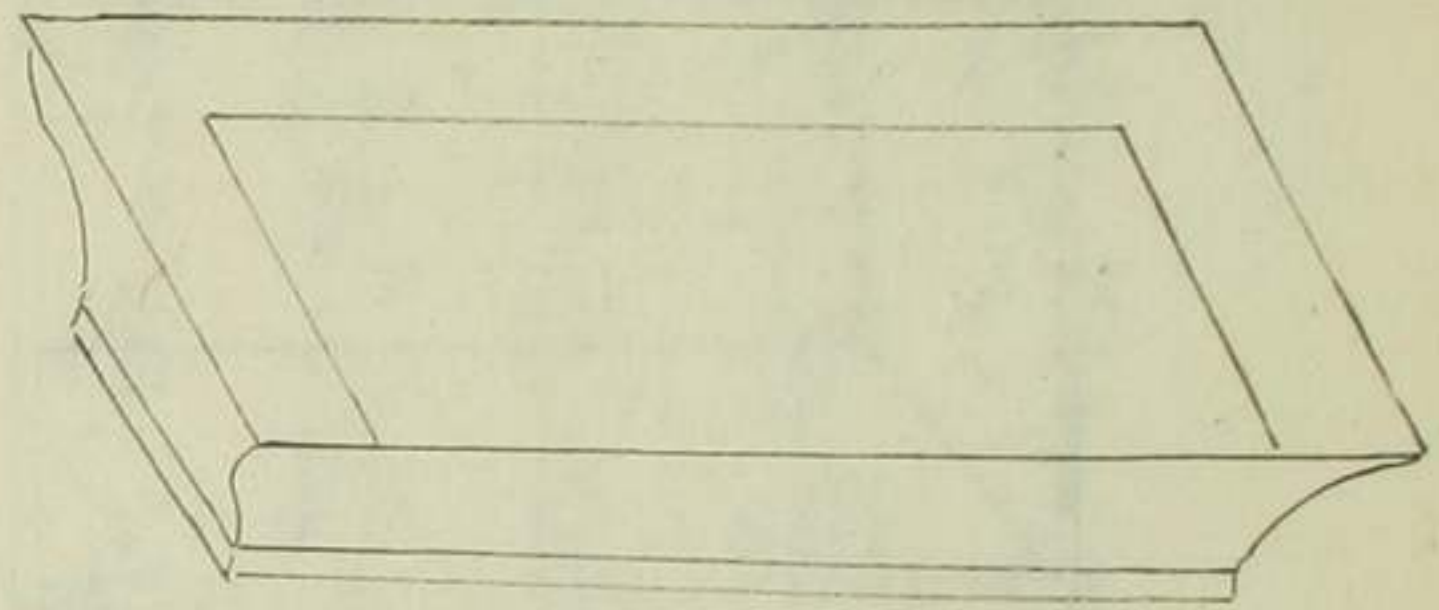
長さ二尺一寸幅一尺二寸板厚さ四寸但二通り方隅をいれ
る玉座也
木貝瓦先あり好の番

一同長板

長さ一尺四寸幅九寸七寸板厚さ三寸半とらむは右は入
木系且好り番



一 四方盆



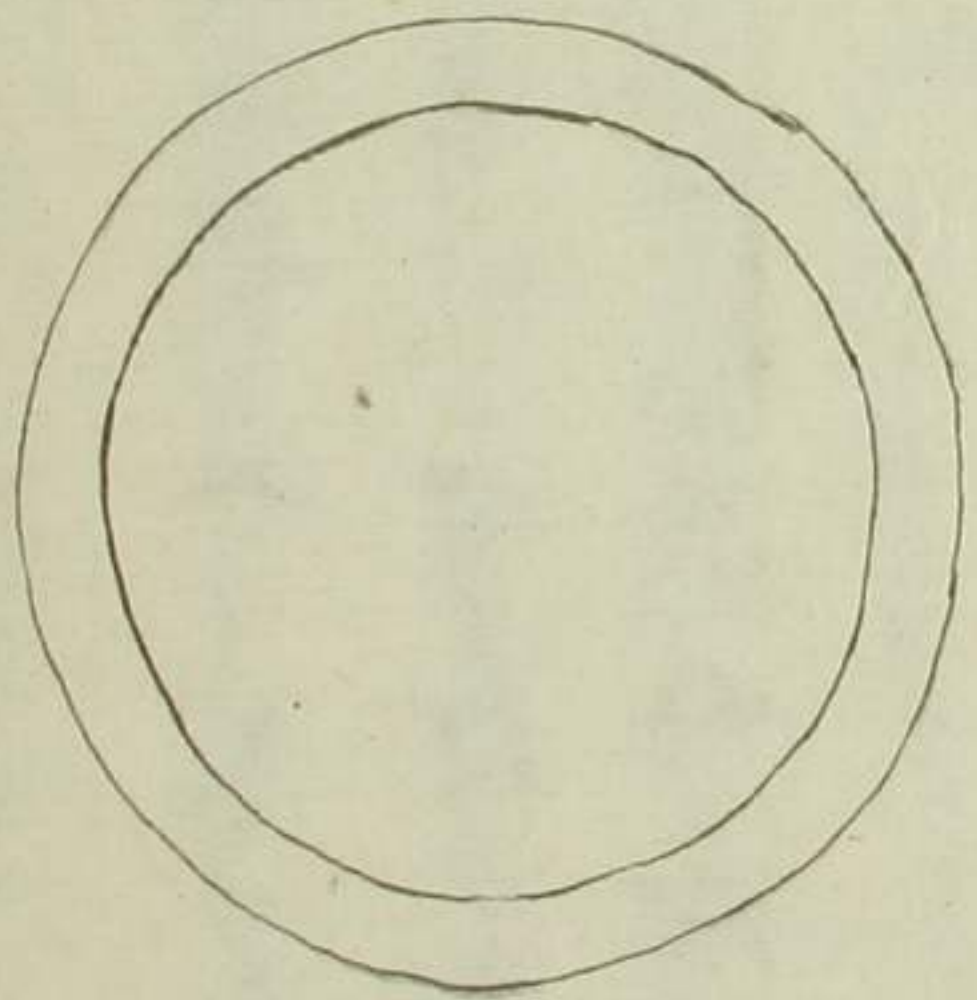
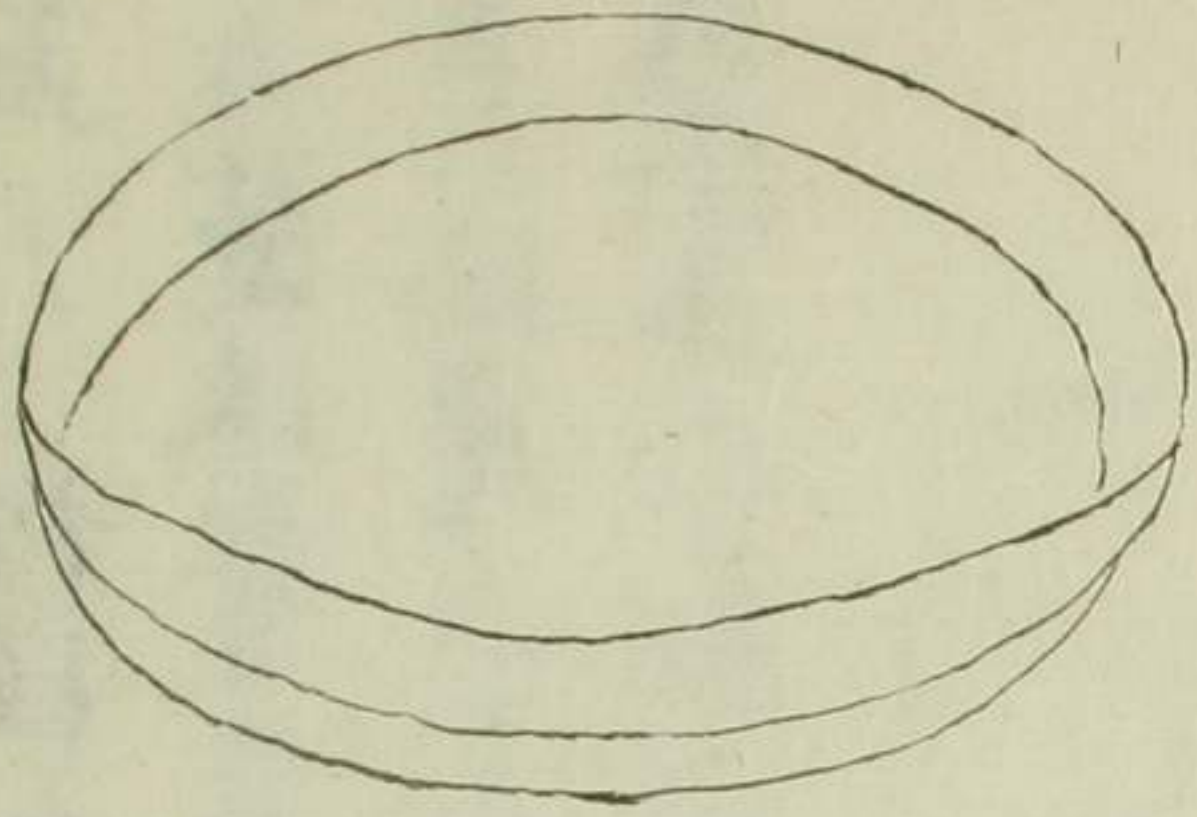
七寸外法三寸八分底鏡板
七寸一尺外法七寸二分底
鏡板幅五寸二分半幅一寸二分
板の厚可一分半

七寸一尺外法三寸八分底鏡板
七寸一尺外法七寸二分底
鏡板幅五寸二分半幅一寸二分
板の厚可一分半

一 大丸盆

指渡一尺二分底鏡九寸八寸七分
板の厚可一分半

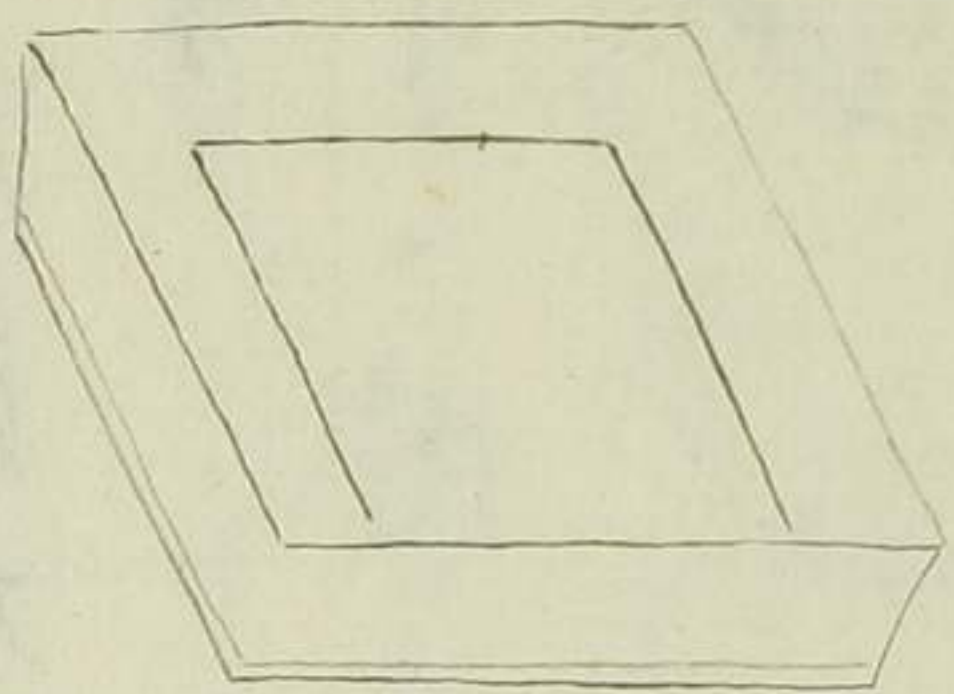
右の頁置公少多こ一圓り字し古法編



一松木盆

松板之板

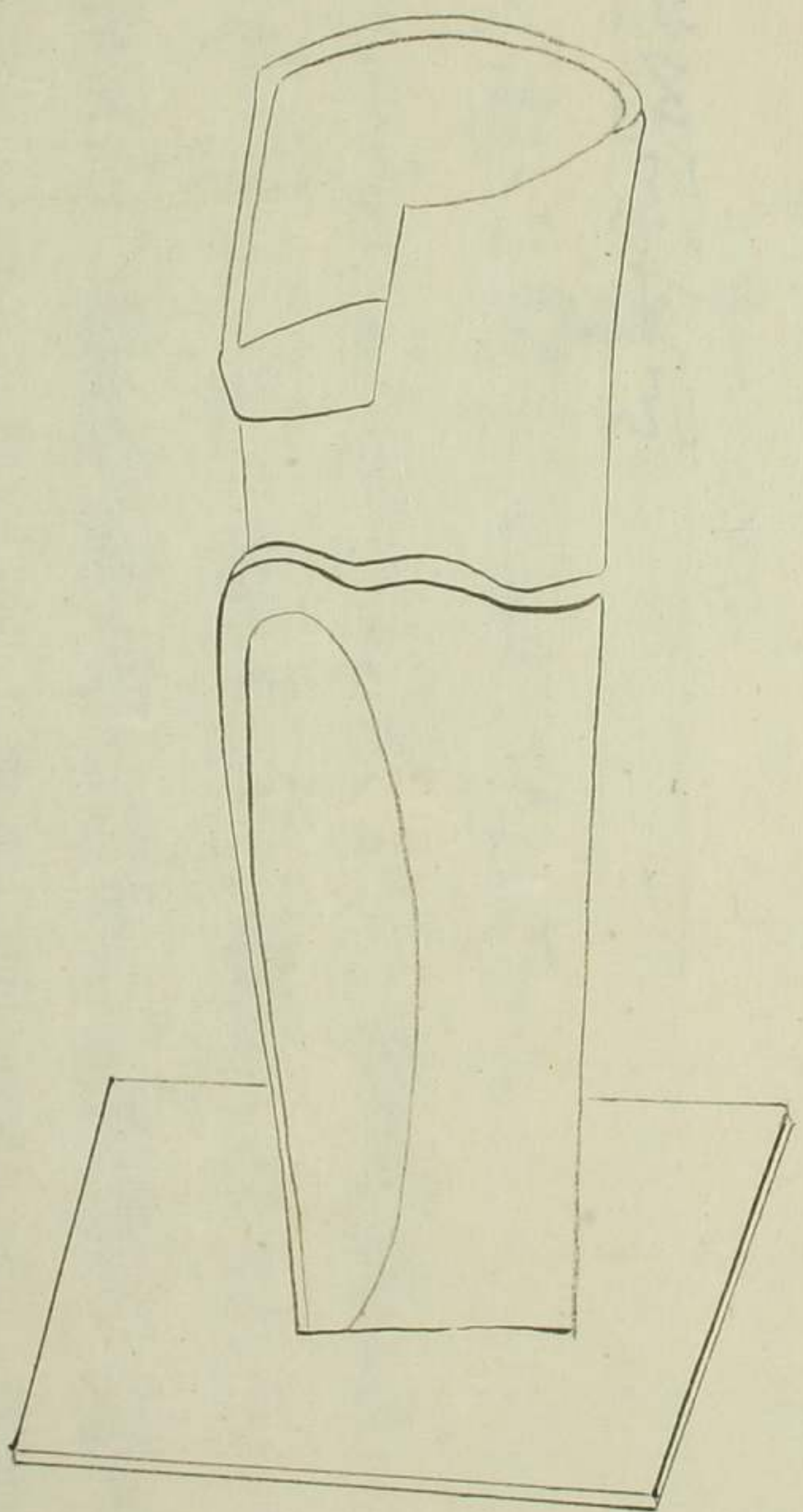
一寸四角鏡板一寸五分縁一寸五分以内をくりぬき鏡板表一寸
四角縁の縁厚二寸五分同寸五分を寸底の表一寸五分
六分成長集念板の如く圓形に縁の厚好座一枚板に



一竹葉ナニ

七寸八分一寸釦心法の高さ幅一寸五分の端から一寸

四寸下にあり基板七寸七分幅六寸厚寸七分



永き日當良呉床のとき火の
代りのあつた打つてお

長浦哥

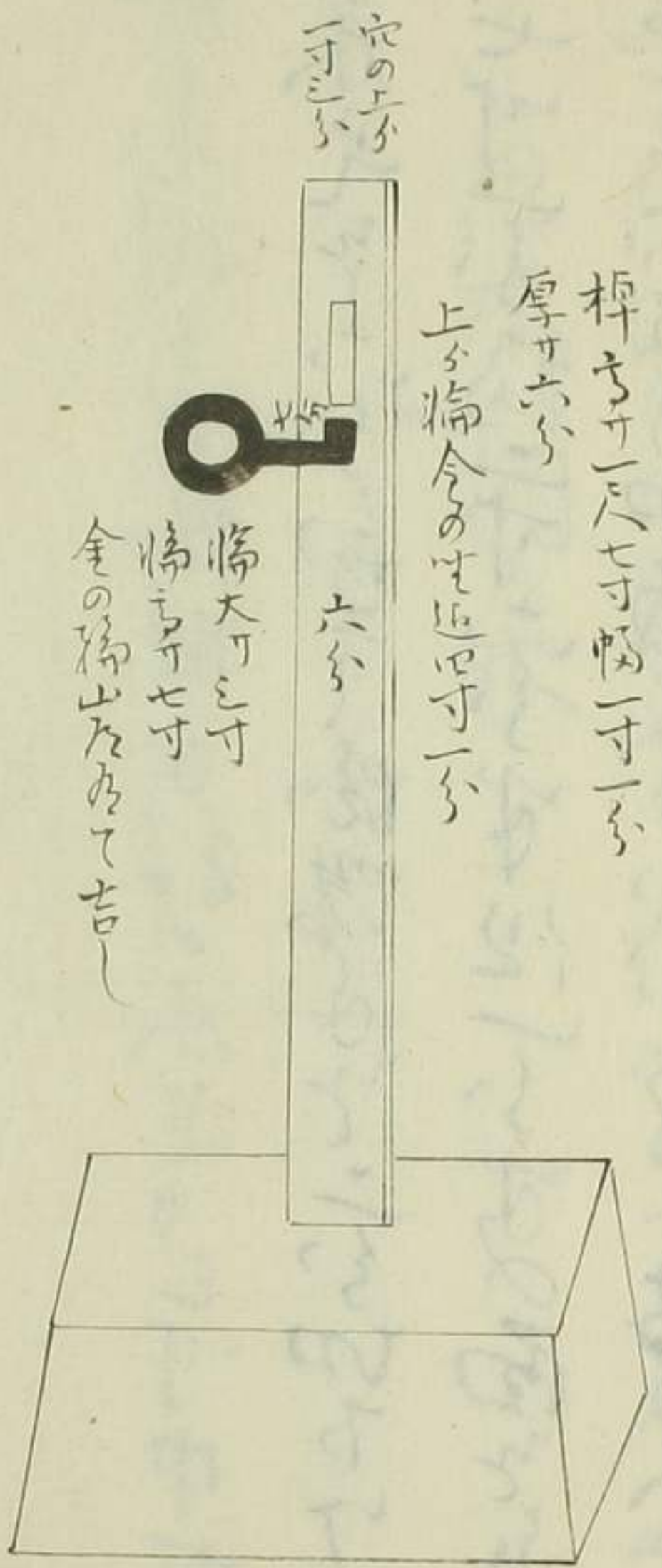
一 短檠

高廿一尺一寸五分 檠幅一寸二分 檠厚六分 檠柱心見有
 望一寸二分 檠八分 但上の切端より 檠の上端一寸二分 檠心見有
 このの折下を八寸五分 このの折下より一寸五分 檠の端
 一寸二分 檠金丸の指廻一寸二分 檠の全幅七寸五分 上り
 五寸五分 檠の柱厚五分 檠の柱厚五分 檠の柱厚五分 檠の柱厚五分
 二寸五分 檠の幅一寸五分 檠の柱厚五分 檠の柱厚五分 檠の柱厚五分

短檠の作法

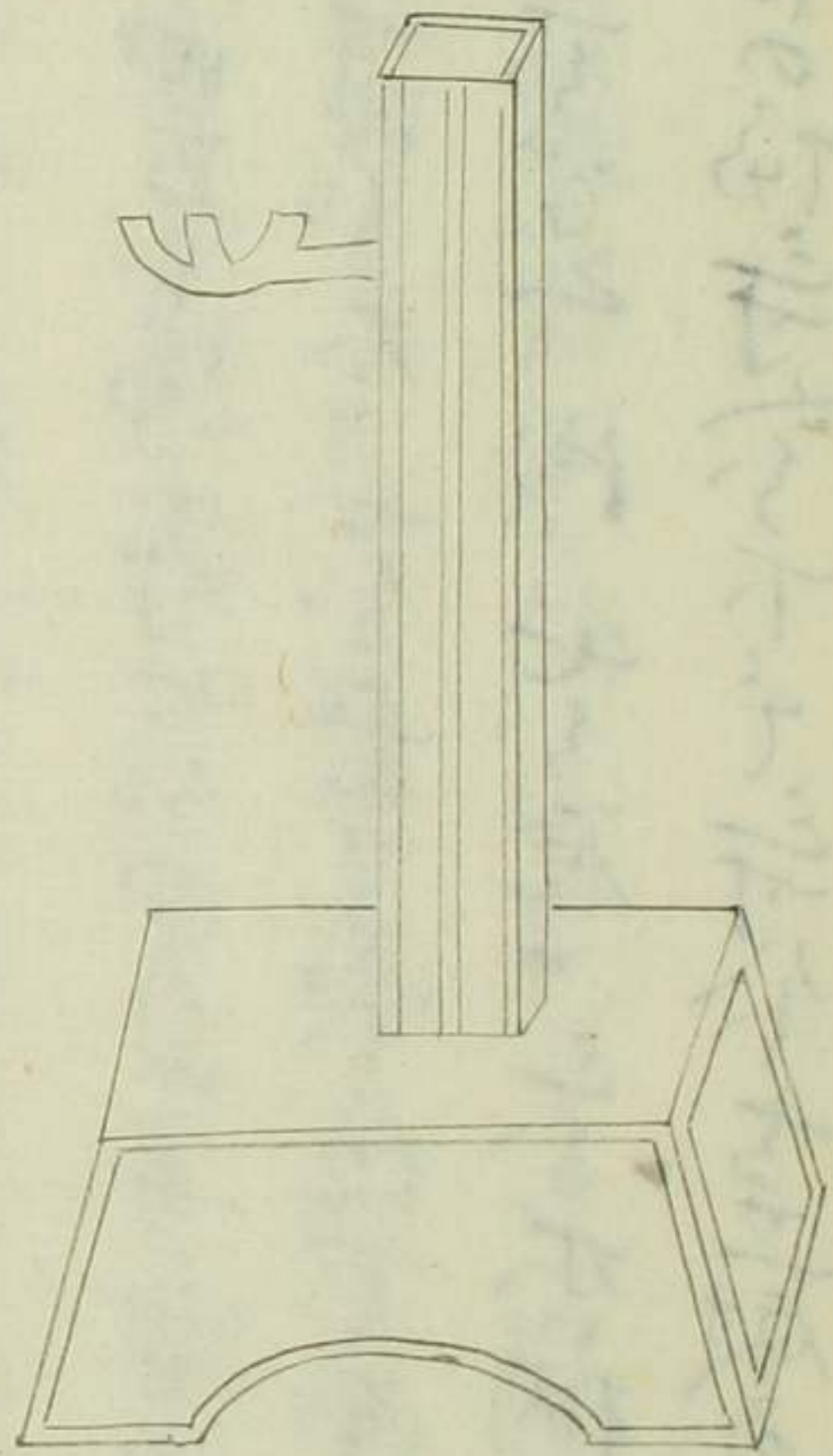
一 木燈臺^{十四}

檠の上端幅一寸四分 四方下端四寸七分 四方柱厚二寸四分 但一分
 木の平面を檠柱七寸八寸四分 大寸七分 上より五分 他一面を檠柱
 木の七寸四分 幅一寸二分 五分 厚五分 木の桐柱厚五分
 檠の上下四角切角口の幅一寸四分 下より五分 檠の柱厚五分 檠の柱厚五分

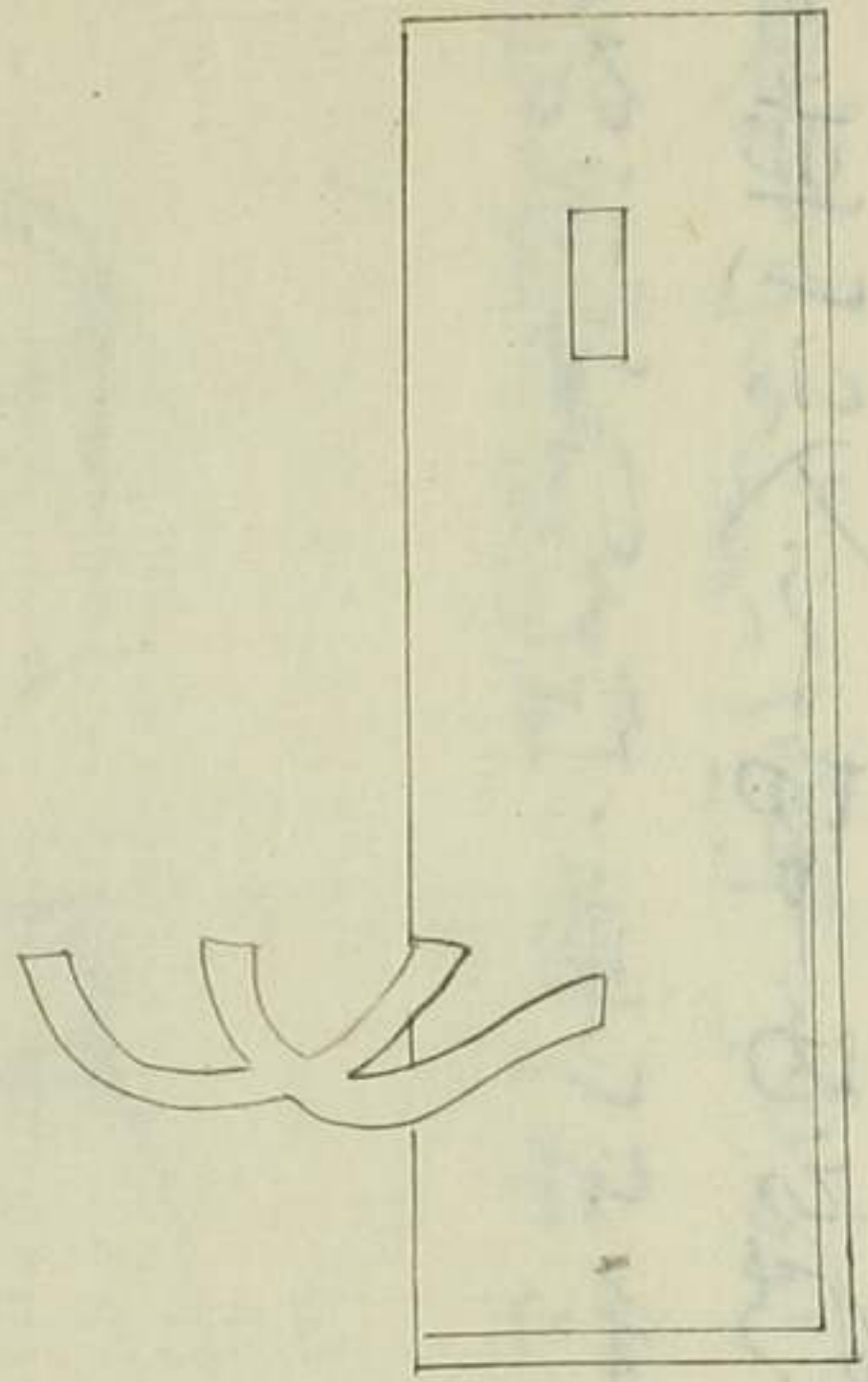


一 掛燈拭

燈珠の木の燈意同なり 燈珠の持の木七寸五分厚五分
 燈珠の持の木七寸五分厚五分 燈珠の持の木七寸五分厚五分
 燈珠の持の木七寸五分厚五分 燈珠の持の木七寸五分厚五分
 燈珠の持の木七寸五分厚五分 燈珠の持の木七寸五分厚五分
 燈珠の持の木七寸五分厚五分 燈珠の持の木七寸五分厚五分



より六寸五分位ほどの穴に七寸五分に咽けて裏がくさしと極々
 ゆるぎなくし位木の桐の木



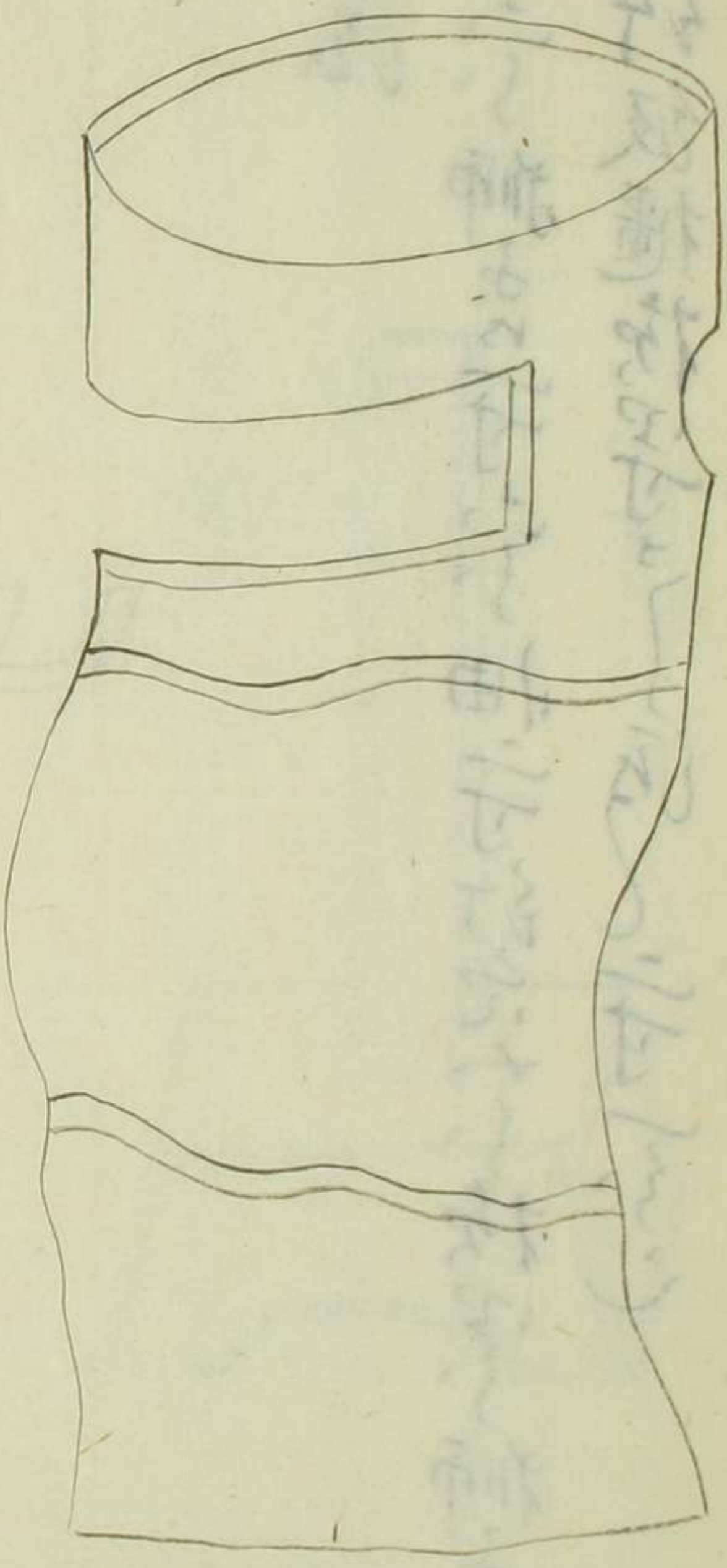
一 竹^{十六}筒寸法

お七寸八寸五分獅子の一寸五分細守釘穴から横は獅子の
 下六寸五分竹級櫃横守寸五分深し一寸五分

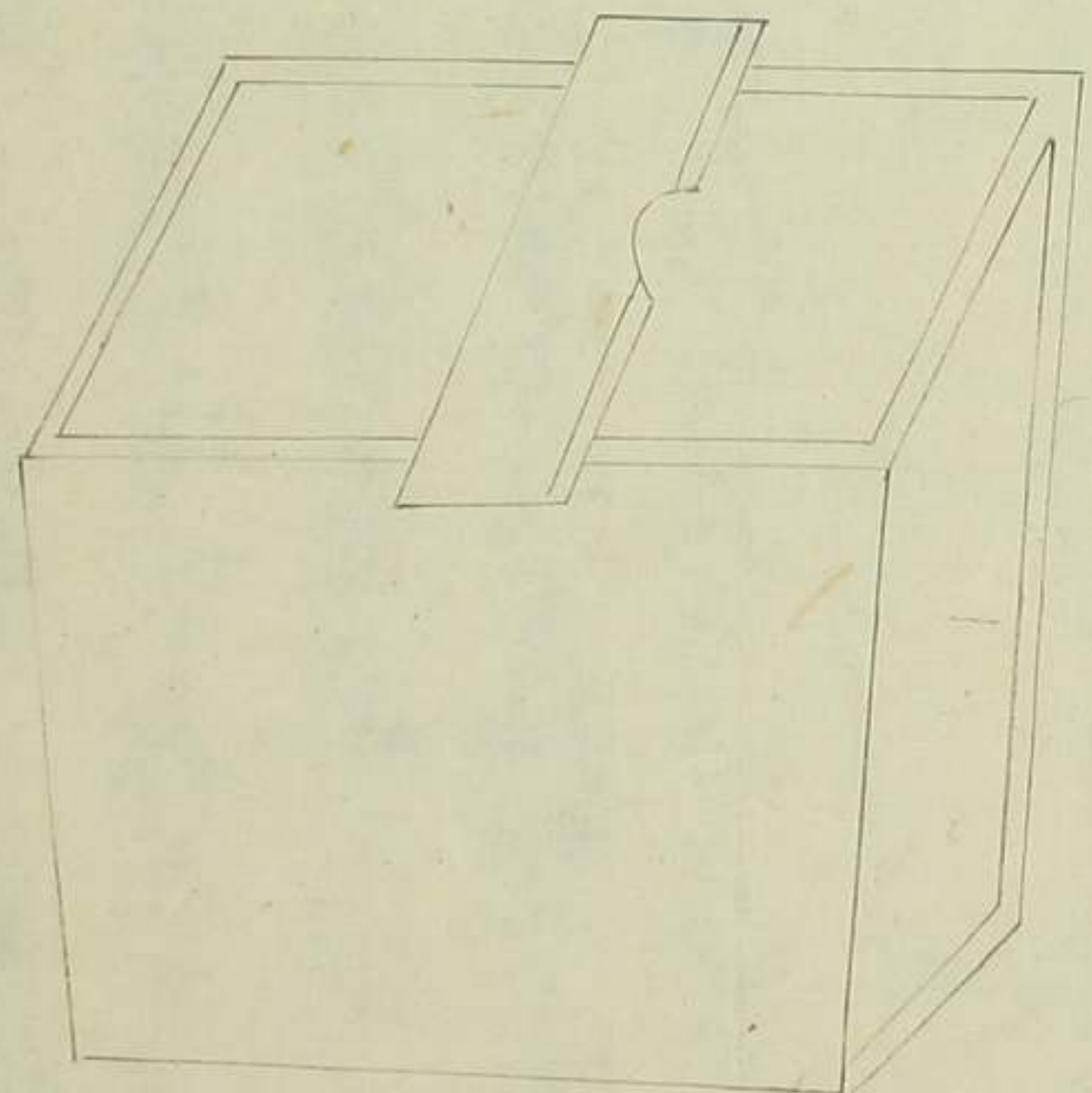
六圓坤のり筒す法之竹並山竹利休竹花筒切切す法之
 小田系漆のり並山小入切甲内おける竹外亦たふある
 毛雁代とてふ可也

一 釣瓶寸法 四七 木形松

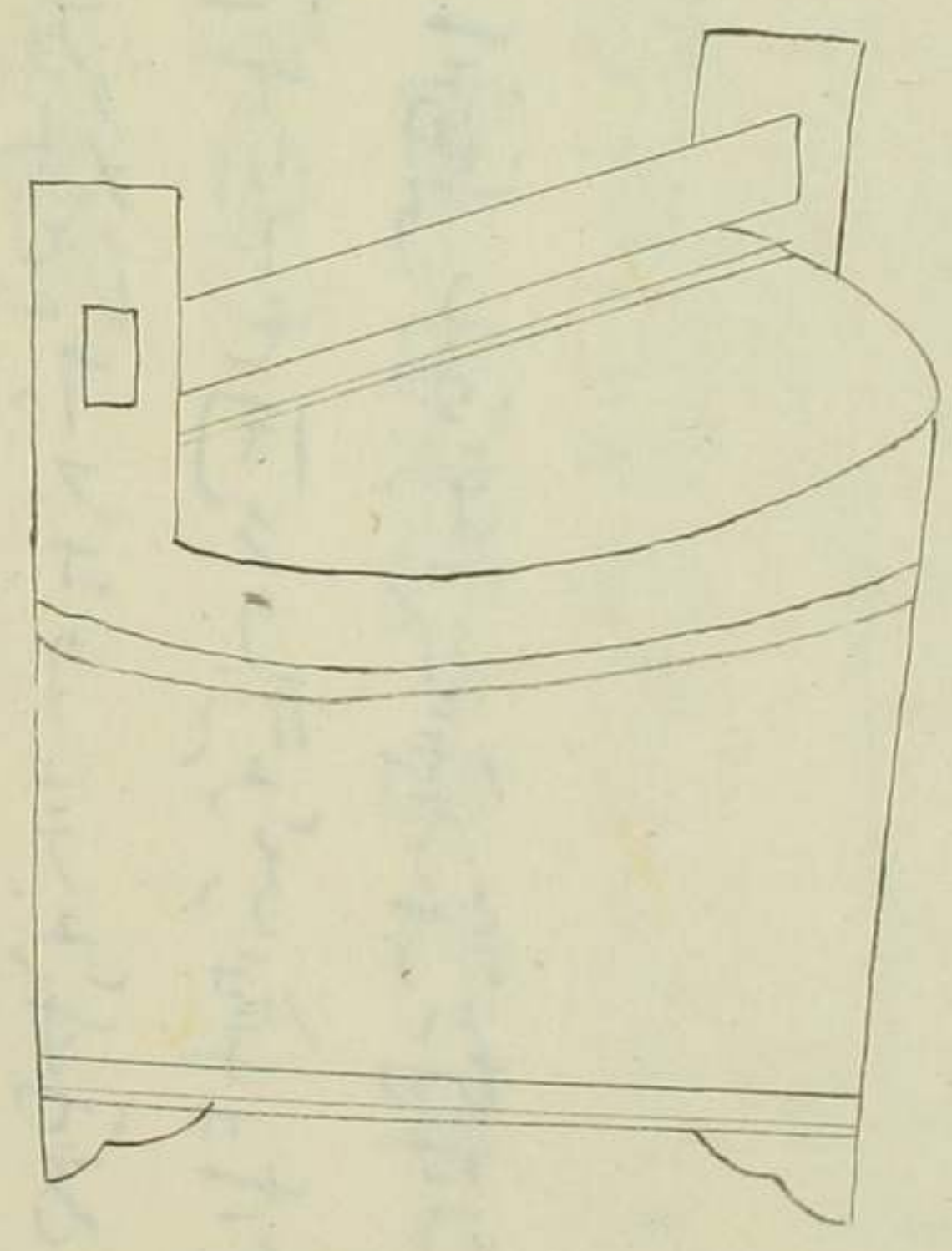
上にてる漆七寸六分四方外法下スホリ三寸四分外法寸
 中内法寸幅九分但ナリトモ同ナリ板厚サセ板厚四寸
 ナリに蓋板厚サセ釘ハ一通り小四寸底の釘ハ切口四方おち
 板目の方に四角宛鉄釘也



一 真十八手桶

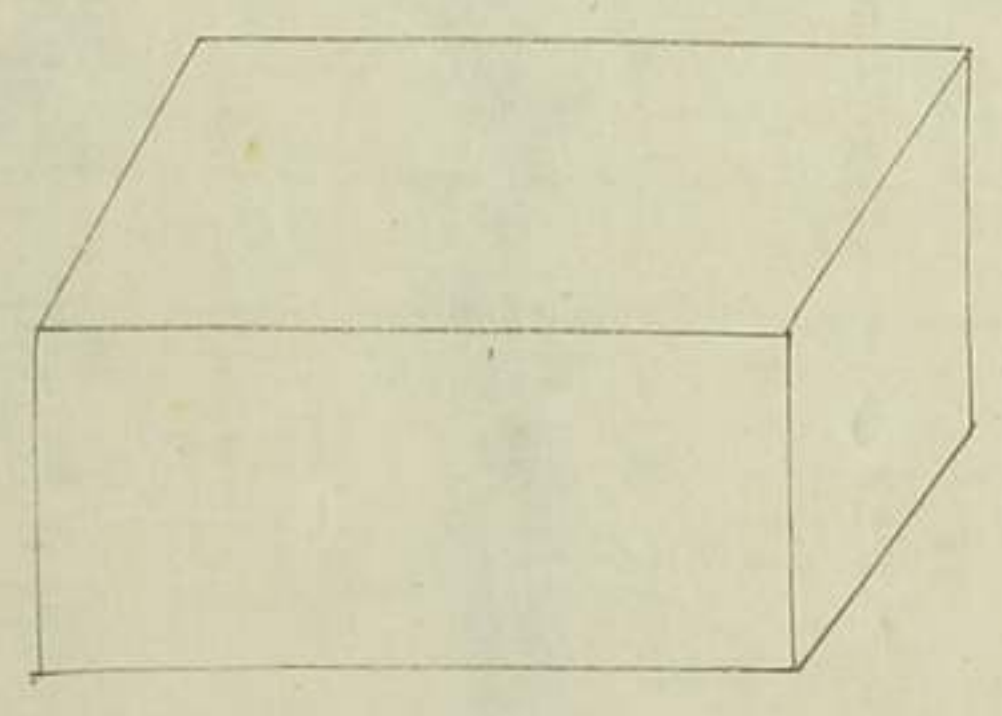


指幅八寸五分法下指幅一尺七寸五分法お寸足寸
 高寸五分幅寸丸の寸桶の長寸七寸七分幅上寸七寸五分
 一寸五分厚寸七分内法七寸五分幅九寸厚寸六寸五分
 寸五分厚寸五分幅寸五分厚寸五分幅寸五分厚寸五分
 上寸五分割寸五分板厚寸五分厚寸五分厚寸五分厚寸五分
 合口あり



一茶桶十九箱

高寸五分幅寸七分厚寸五分厚寸五分厚寸五分厚寸五分
 寸五分厚寸五分幅寸五分厚寸五分厚寸五分厚寸五分厚寸五分
 三齋流七寸五分高寸五分幅寸五分厚寸五分厚寸五分厚寸五分
 厚寸五分厚寸五分

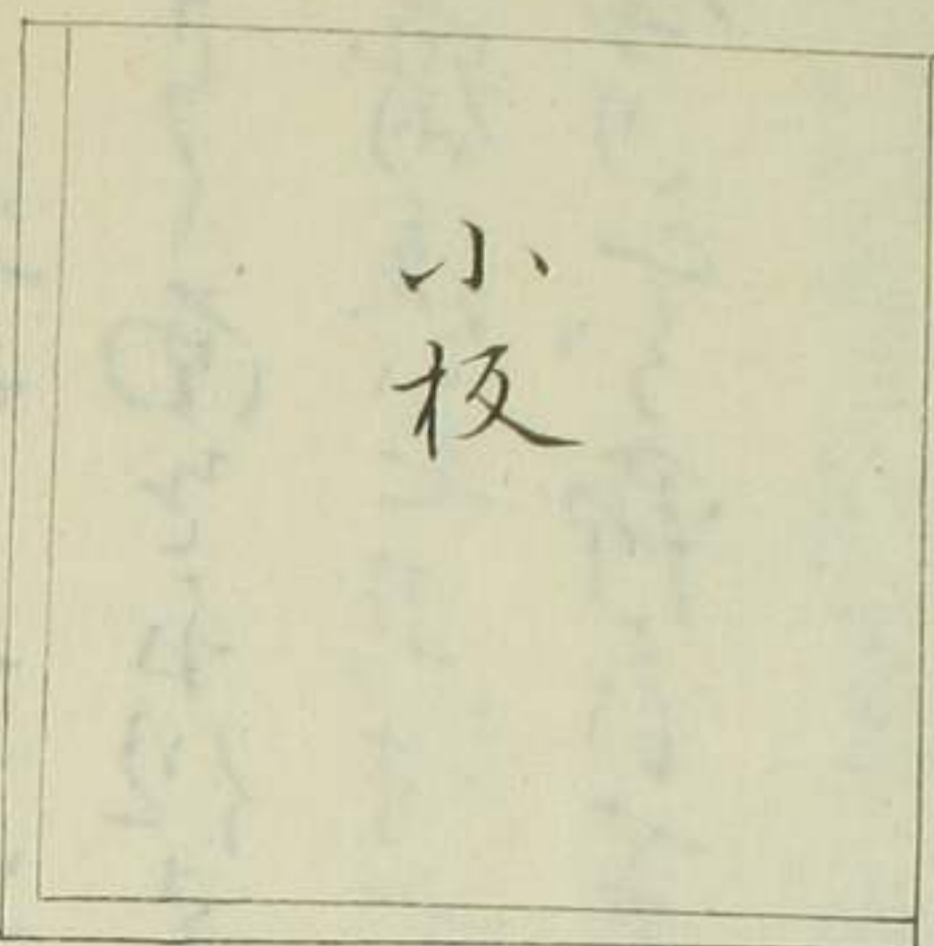


一板寸法二十

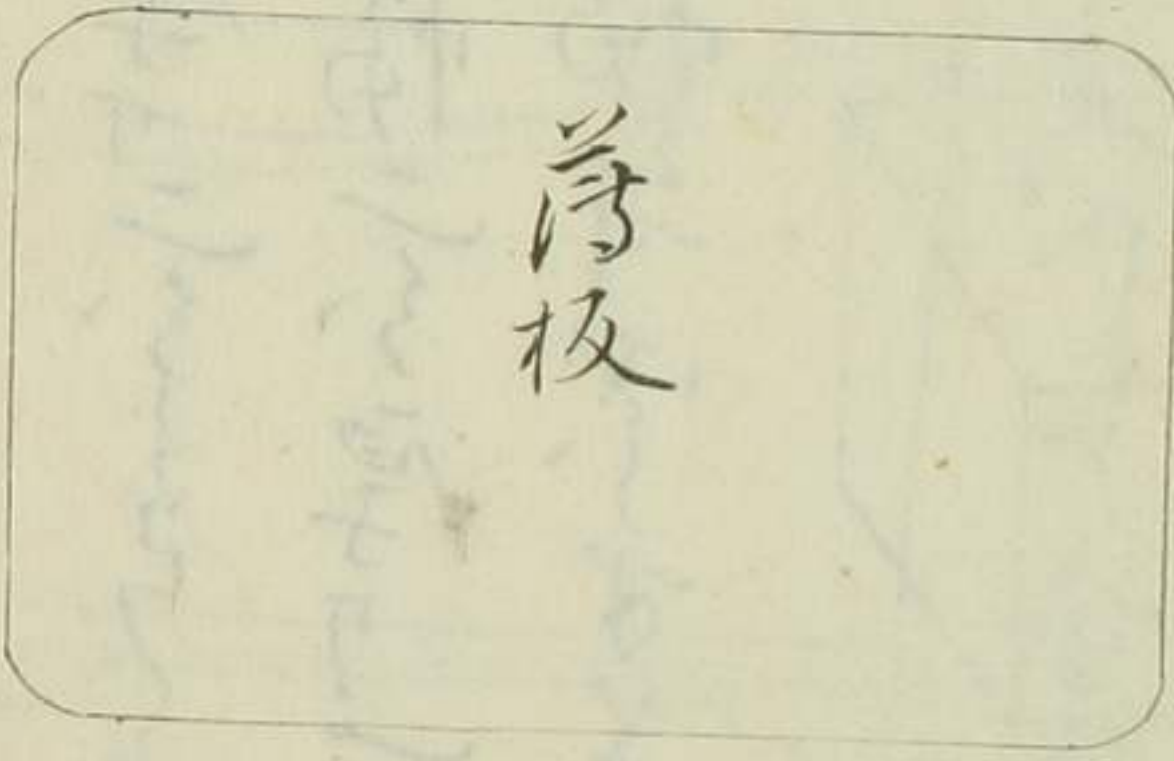
其物大九寸五分四方小八寸五分厚五分（丸面）

一 薄板 二十一

其可一尺三分幅九寸五分厚四分（但矢若蛤羽あり）



小板

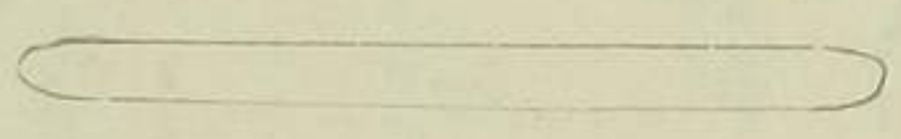
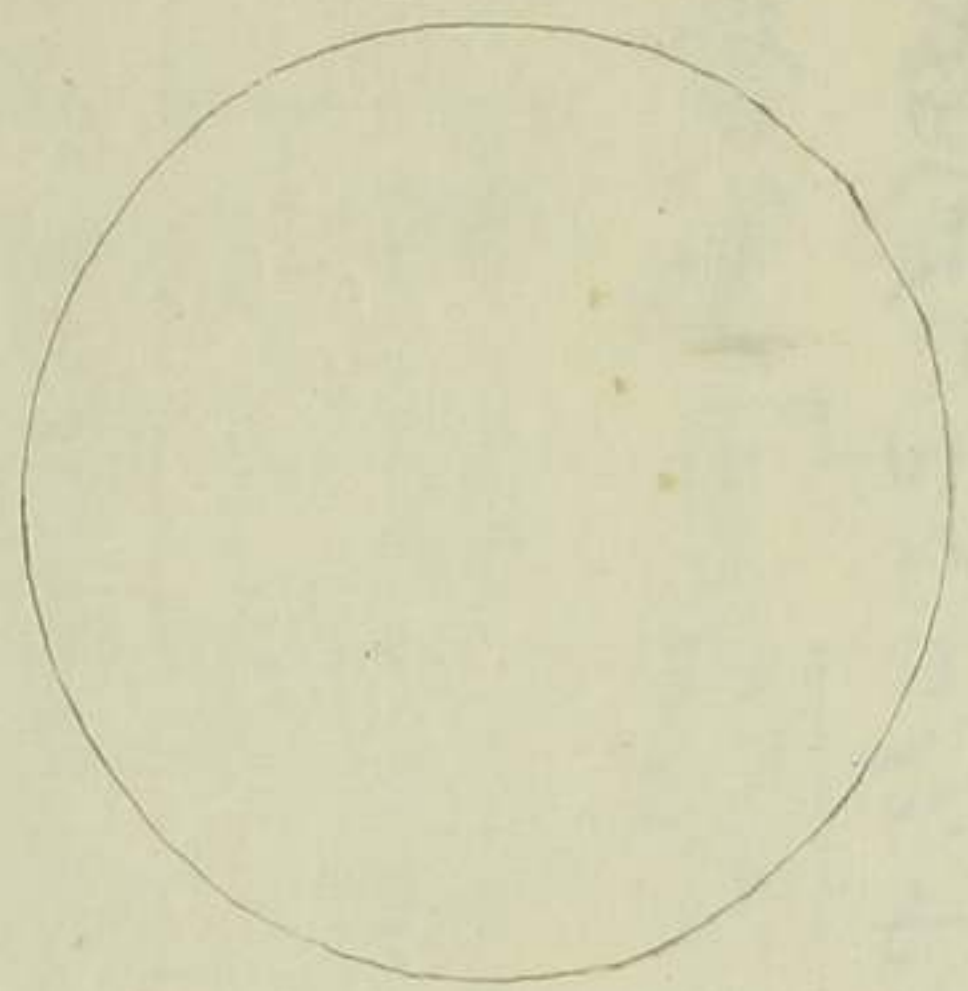


薄板



一 丸薄板 二十二

指派し九寸五分厚四分（但蛤羽あり）



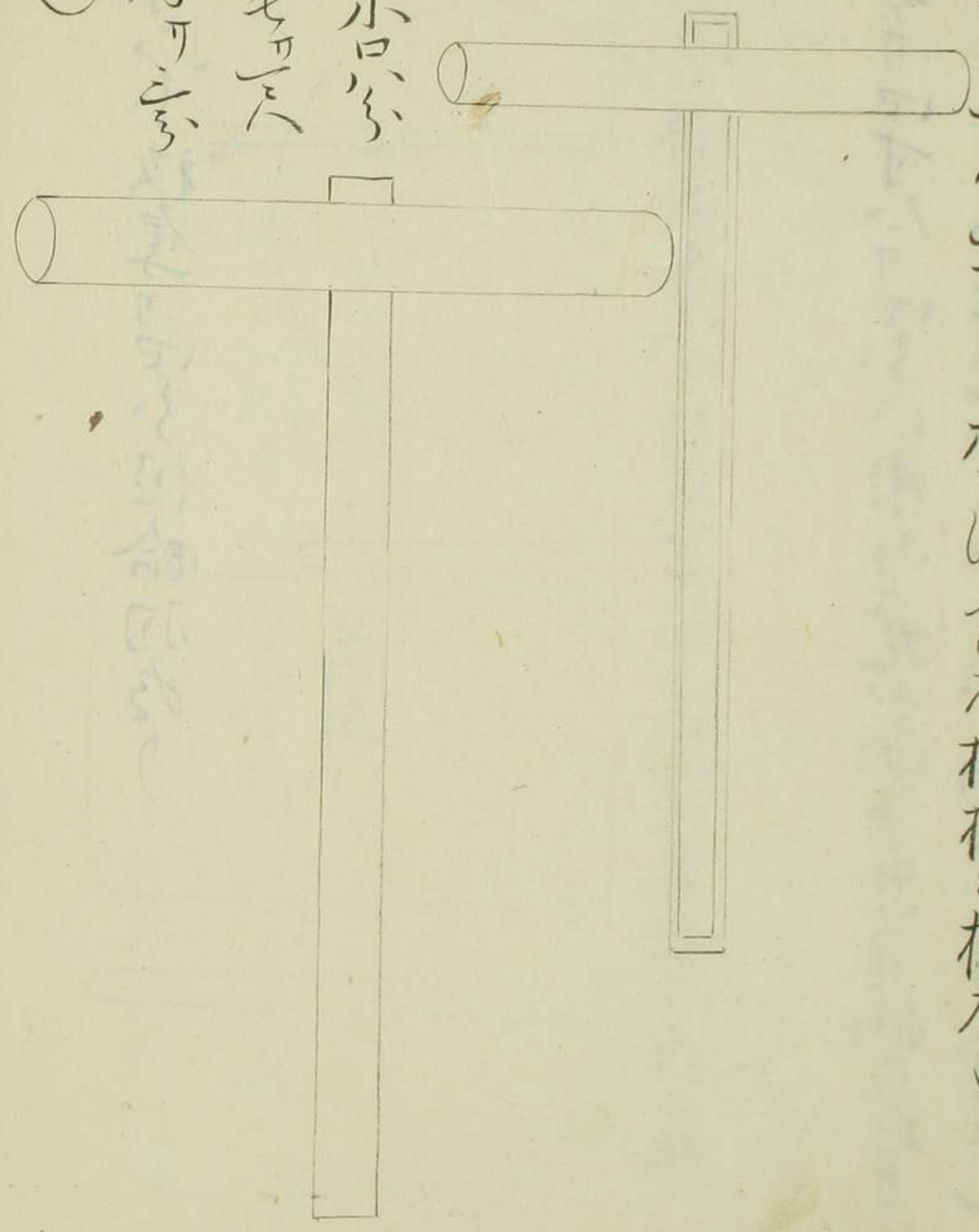
一 喚鐘撞木 二十三

撞木其可四寸五分八角五分（丸面を以てし柄あり）
一尺二分幅五分厚四分（平のしそ少面を以て撞木は丸）

此字〇又七寸一人守し木はほふの木扱柄は榎木

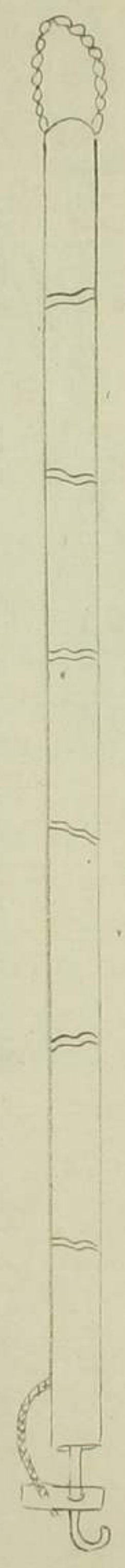
一飯盛大榎木 二十四

榎木七寸守木口分
丸く削る柄七寸天
守幅六寸厚寸分
ほの爪こし



一自玉寸法 二十五

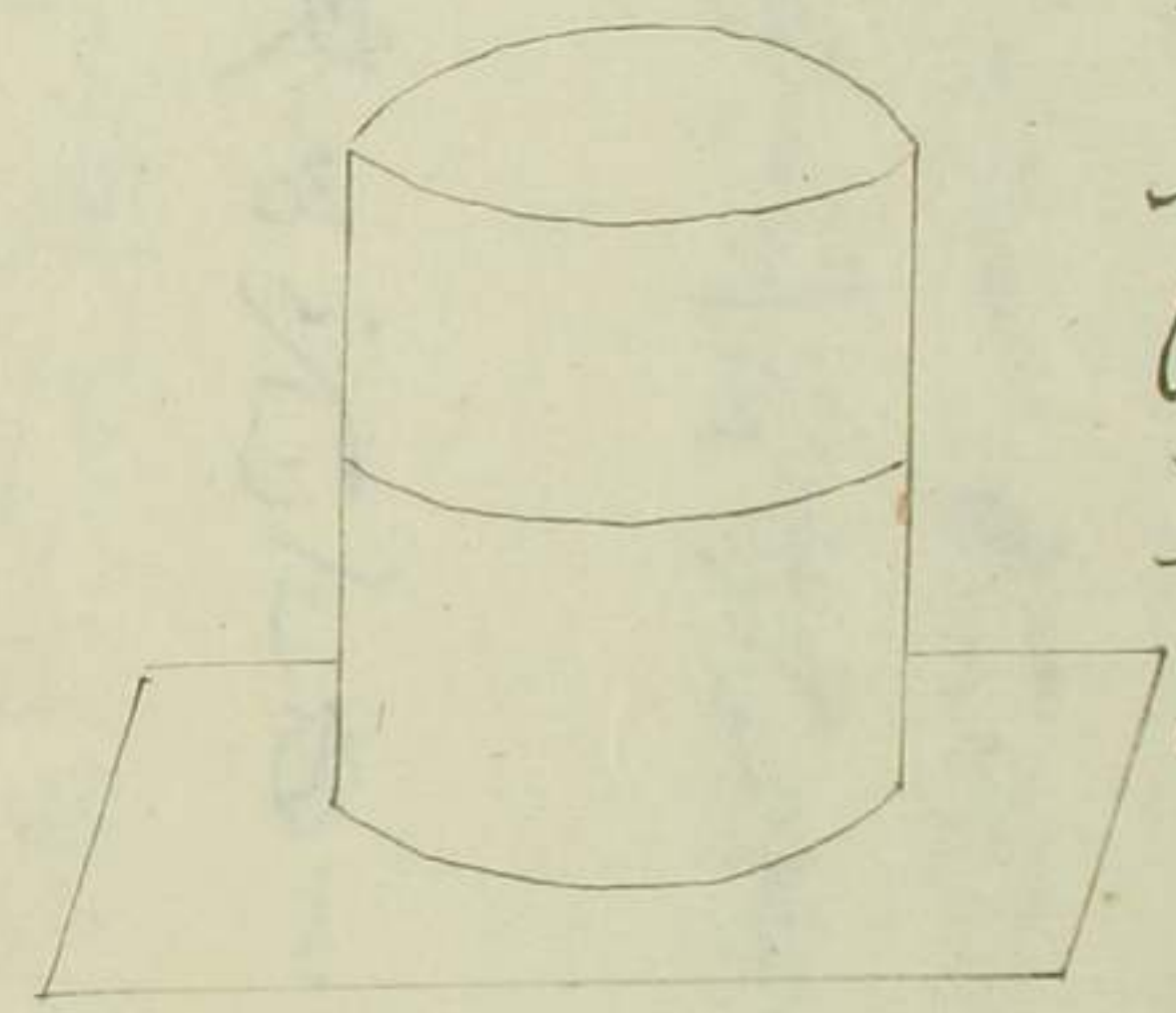
七寸天井高六寸八寸惣縁上端より竹の切口迄一尺二寸五分小猿
の縮付る定ぬ竹の切口分寸五分小猿の七寸五分幅寸
厚寸六寸五分下の中半寸大野寸七寸八寸五分



一茶杓寸法 二十六

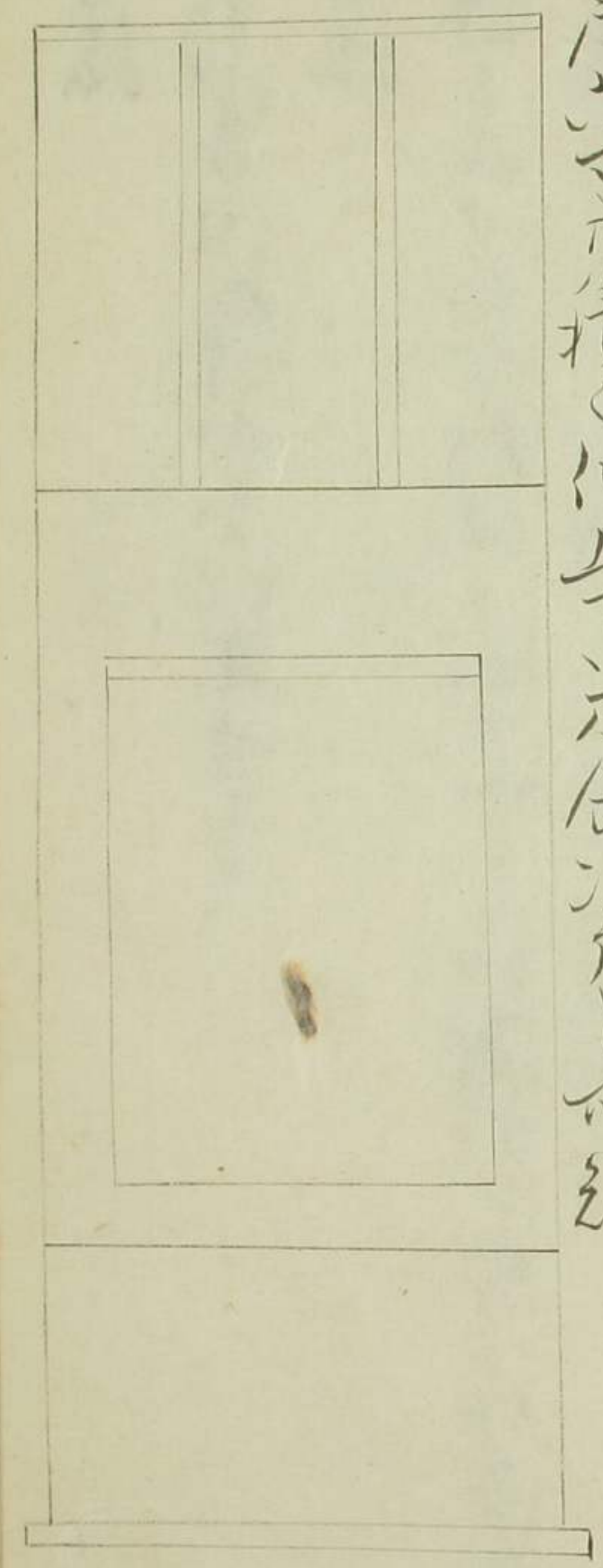
七寸六寸部より節より上寸下寸部より利休柄
七寸六寸八分節の上二寸五分下寸織部柄
七寸通ぬる竹小より七寸程有り足合はら

六寸厚より多く有る巻中継ふふ合て厚切知足合ふふ
切てて代位兼蓄雷吹いせふふて寸法並てより



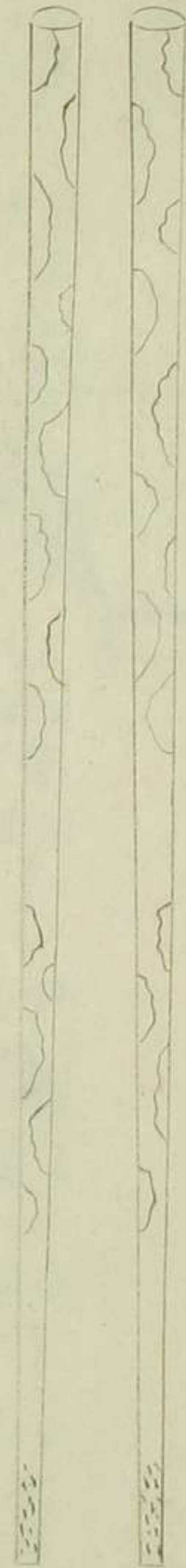
一 金紙寸法 こすふ
七寸寸部幅寸七分合切下し紙敷厚き紙十枚
用但少移多し其寸法有してし恰好足合方也

一 懸巻紙寸法 こすふ
名物の名紙乃古きより一尺分接切る名物の字一尺分接
し其合
一 表具寸法 こすふ
上文字一寸少下寸一上中四寸五分下二寸五分中四寸五分下
一寸五分寸積し但上下足合方と可也



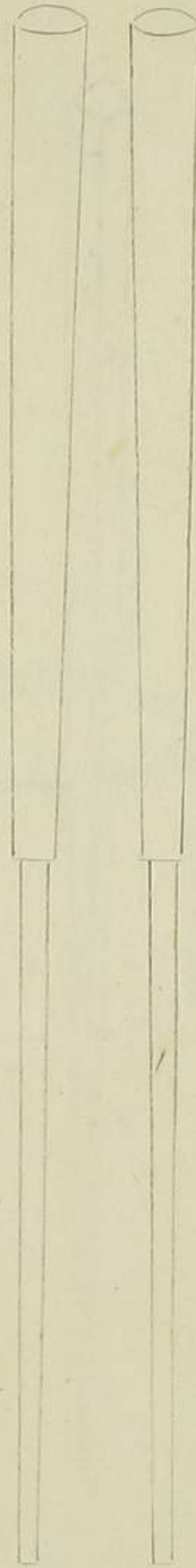
一 火箸 四寸七

九寸九寸寸迄 鉄引糸糸眼よりぬぐ



一 葉柄火箸 四寸七

柄七寸寸寸迄 鉄七寸寸寸下 糸七寸八寸七寸寸迄



一 透木寸法 四寸七

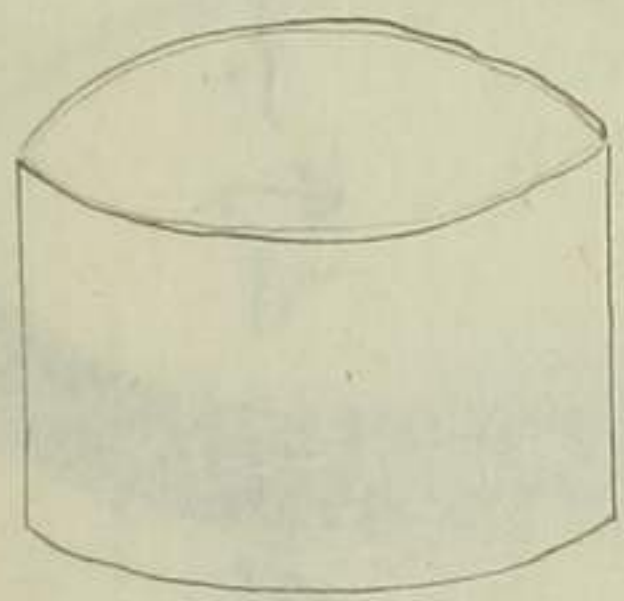
長二寸二寸寸迄 厚二寸寸寸寸迄

太木杉正目桐ほふり木端を但透木に三寸寸風物の前より
之を二寸寸寸寸迄 厚二寸寸寸寸迄
のちを解し 二寸寸寸寸寸迄



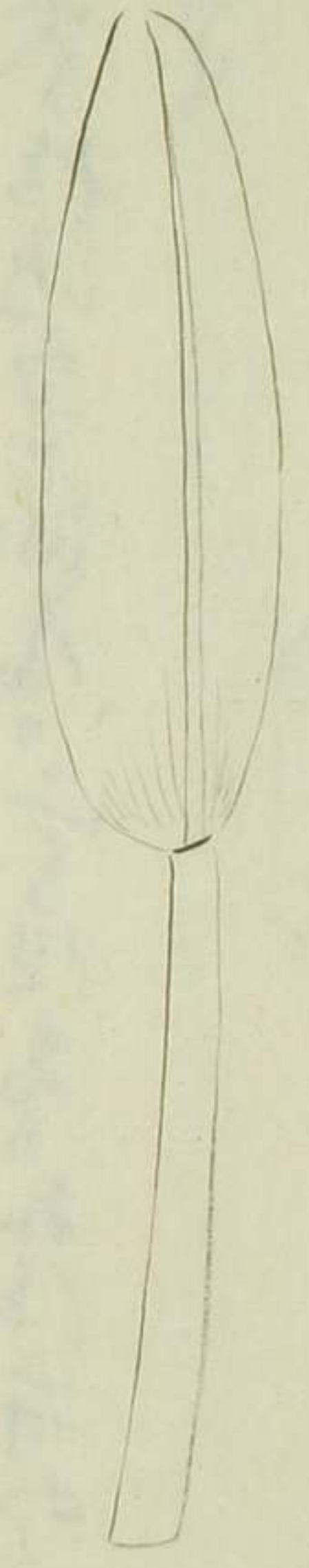
一 水覆面桶寸法 四寸七

高七寸寸寸寸迄 厚二寸寸寸寸迄 糸七寸寸寸寸迄
寸寸寸寸寸寸



一 風がッ羽帚寸法 四十七

羽之三寸わらわ柄四寸わらわ寸も露白鳥の羽



一 玉撥寸法 四十八

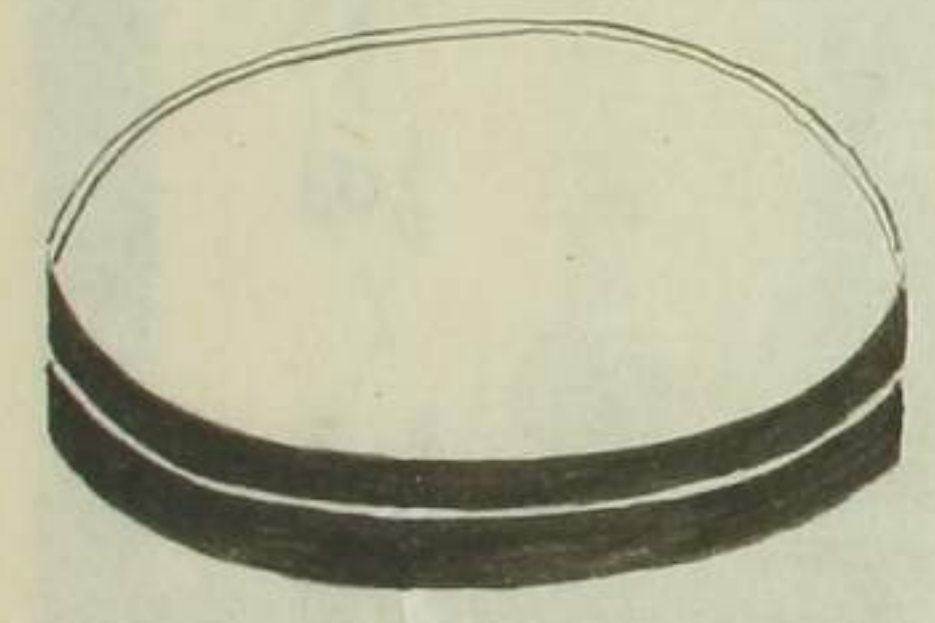
其の六寸六寸迄与物一寸八寸厚寸八寸下
の厚一寸八寸厚一寸八寸厚一寸八寸厚一寸八寸
幅一寸八寸上下の細い位を一寸八寸厚一寸八寸
少くあつた

一 盆石 四十九

高寸三寸六寸横六寸能くは竹の枝や草を

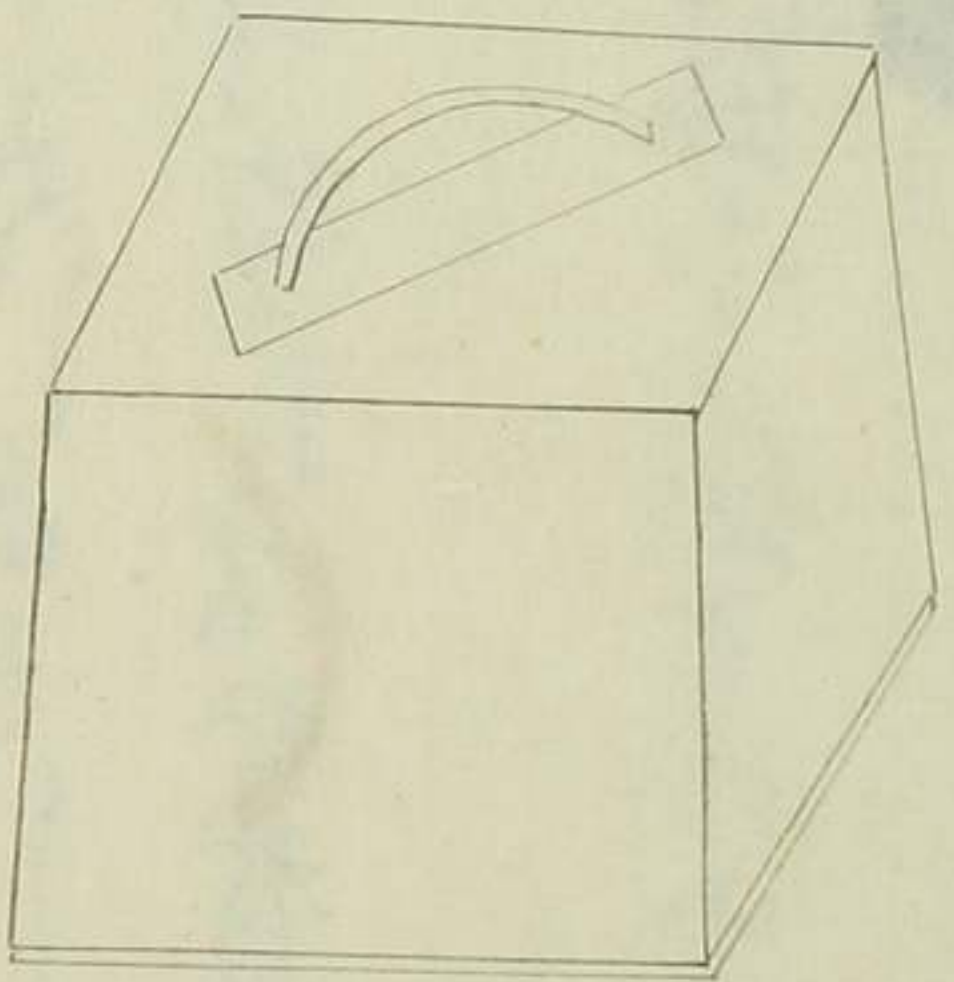
一 柱盆 五十

其の二寸横九寸板板に縁なく縁中にも柱あり



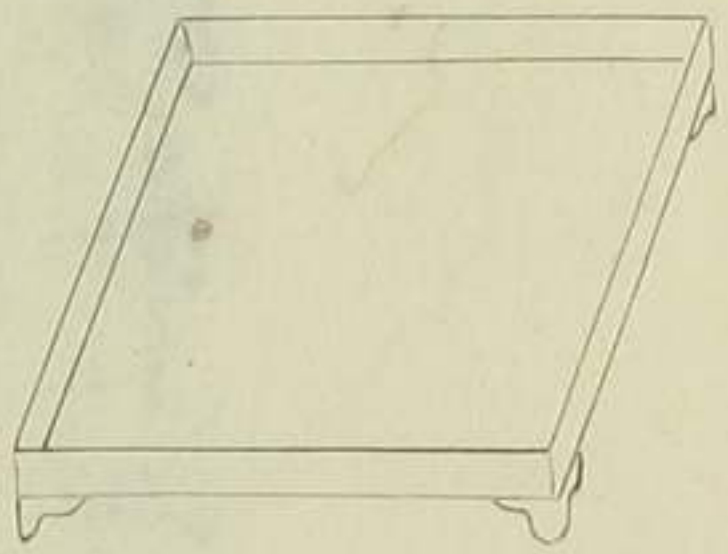
一 活のり地行燈寸法

高八寸幅六寸五分上平細くほぶりの合寸五分幅五分
寸五分幅五分板摺りしを糊のしをきり寸五分幅五分



一 花のり和印の花臺寸法

高さ八寸五分幅六寸五分厚五分



一 燈縁寸法

高さ八寸五分幅六寸五分厚五分
幅八寸五分厚五分寸五分厚五分
幅八寸五分厚五分寸五分厚五分

